東京清陵会だより

第28号

発行 **東京清陵会**（諏訪清陵高等学校同窓会・東京支部）　会長＝平林千義　編集 84回生（昭和53年入学）　http://tseiryo.com/index.html
事務局　〒113-0033 文京区本郷1-10-14 加奈利屋館7F TEL&FAX 03-3812-5887 mail tokyoseiryokai2017@gmail.com　DTP＝スタジオパラム　印刷＝サンライズ

此の世をさます床虫と ならでやむべきこの身かは

私たち84回生は昭和53年（1978年）に諏訪清陵高校に入学しました。当時、在職数十年におよぶ先生方の言葉を聞き、遠い昔から受け継がれた校風を、普遍的なものとして身近に意識するたびに、心強く感じた記憶があります。

そんな私たちによる『東京清陵会だより』28号の中心をなす企画は、「出版＝活字文化の未来を考える」という、同窓会報らしからぬテーマですが、これを語っていただくにふさわしい同窓生の方々への取材の結果、読みごたえある内容に仕上がったと自負しています。

出版が文系なら、理系の清陵出身者はこれまた多士済々。両分野を「未来」という言葉で結びつけ、前者を会報の中心に、後者については、きたる10月1日に、「科学の未来を語り合う」と題したパネルディスカッションにて取り上げますが、そこに登壇していただく同期生4名のパネリストを紹介しました。また「未来」という言葉を、昨年83回生の先輩方が

清陵今昔 そして未来へ

掲げられた「清陵今昔」に付け加えさせていただき、84回生の標語としました。

私たちの日常を支える食生活。清陵出身者が営む首都圏の飲食店の特集は、単なる情報提供にとどまらず、経営者の皆様の考え方や生き方に学ぶところがあることをお伝えしました。

2017年「清陵祭」スナップ。　撮影／上田克郎

その他、硬軟織り交ぜた独自企画に取り組んだ私たちを、第二校歌七番に登場する「床虫」になぞらえたいと思います。この語だけでは、何やら卑小な存在を連想しかねませんが、それは「覇気喚び起こし武に文に此の世をさます」という壮大な役割を担い、「ならでやむべきこの身かは」という覚悟を必要とするもの。かくも反語的な「床虫」となりえた自信はありませんが、会報を通じて「此の世をさます」という大それた願いが、少しでも果たされたとすれば、これに勝る喜びはありません。特集の一つ「恩師を訪ねて」には、そんな私たちに心を砕いてくださった担任の先生方への、感謝の気持ちを込めたつもりです。最後になりましたが、この会報が完成にこぎつけるまで、他学年の多くの同窓生の皆様のご協力をいただきました。ここに篤くお礼を申し上げます。　赤羽俊昭（84回生）

2017年度 東京清陵会 第51回総会案内

■日時:2017年10月1日(日) 12時～16時30分
- ●総会:12時～（受付開始 11時～）
  〈昼食の用意はございません〉
- ●パネルディスカッション:13時～
- ●懇親会:14時～16時30分（ミニコンサート・岩波理恵）

■場所:アルカディア市ヶ谷（私学会館）3階「富士の間」
東京都千代田区九段北4-2-25　電話 03-6685-0541
※市ヶ谷駅（JR、東京メトロ有楽町線、南北線、都営新宿線）下車、徒歩2分

■懇親会費:8,000円（59回生以前は無料ご招待、学生は2,000円）
※当番幹事:84回生、次期当番幹事85回生
サブ幹事94回生、104回生、114回生
※今年も学年対抗参加人数コンテストを行います。
※東京清陵会ホームページもご覧ください。

●ご面倒ですが
出席、欠席いずれの場合でも　同封の返信用はがきにご記入の上、**9月15日**（金）必着にてご返送ください。

東京清陵会 パネルディスカッション・懇親会 企画

科学の未来を語り合う

パネリスト紹介

10月1日、アルカディア市ヶ谷に科学の最前線で活躍されている清陵OB（84回生）4名が集結。最先端の研究内容や、我々の生活や環境がどのように変わっていくのかといった未来のお話まで、おおいに語っていただきます。当日はぜひ会場にて、スーパーサイエンスを知るひと時をお楽しみください……。

臼田 孝（うすだ たかし）さん

辰野町（辰野中学校）出身

1987年　東京工業大学　修士課程修了
　　新日本製鐵相模原研究所
1990年　工業技術院計量研究所（現産業技術総合研究所）入所
2000年　東京工業大学より博士（工学）学位取得
2000-2001年
　　フランス国立科学研究センター(CNRS)招聘研究員
2010-2011年
　　国際度量衡局（在フランス）招聘研究員
2017年から現職
＜現在＞
国立研究開発法人　産業技術総合研究所
計量標準総合センターセンター長

産業技術総合研究所（産総研）は、研究者数約2000人の我国最大級の公的研究機関です。私はその中で計量標準を所管する、計量標準総合センターを担当しています。計量標準とは、キログラムやメートルなど、測定の大元となる基準を設定する技術です。皆さんが使うはかりや物差し、時計、家庭電力計なども、私どもの開発した基準が元になってその精度を維持しています。研究内容は長さの標準となるレーザー、時間の標準となる原子時計、電気量の標準となるジョセフソン効果デバイスやグラフェンなど、多岐に亘ります。

最近のホットトピックは、19世紀から変わることの無かった質量の標準・キログラム原器が、物理定数（プランク定数）によって置き換わろうとしていることがあげられます。プランク定数とは光子一個あたりのエネルギーを記述する係数です。この値を8桁程度の精度で測定する必要があるのですが、この実験は学術誌「ネイチャー」が5つの最も困難な実験のひとつにあげています。当日は日々の生活を支えるものから最先端科学まで「計量標準の今」をお伝えできればと思います。

金子忠昭（かねこ ただあき）さん

諏訪市（諏訪西中学校）出身

1986年　国際基督教大学　教養学部卒業
1991年　大阪大学大学院　工学研究科学位取得（工学博士）
　　ロンドン大学インペリアル・カレッジにて
　　新技術事業団・日英国際共同研究プロジェクト研究員
1995年　マックスプランク固体物理研究所（ドイツStuttgart）研究員
1997年　関西学院大学　理学部　物理学科　助教授
2003年　関西学院大学　理工学部　物理学科　教授
2015年から現職
＜現在＞
関西学院大学　理工学部　先進エネルギーナノ工学科　教授

現代の情報社会を支えるパソコンやスマホの心臓部で演算や記憶の機能に使われる半導体、この「頭脳」にたとえられる機能以外にも、あらゆる電力機器に劇的な省エネをもたらす効果が存在します。エネルギー問題とは、近年の平均気温の上昇や異常気象など、地球規模で二酸化炭素の排出抑制をしなければならない人類共通の課題なのですが、現在の豊かな社会が持続するには、産業技術にも大きな変革が必要となります。たとえば、自動車産業では、化石燃料を用いたエンジンが電気モーターへ置き換わるという百年に一度の変革が起きつつあります。それを影で支えているのが半導体です。電力の形態を効率よく物理的に制御する「筋肉」のような機能なのですが、性能を飛躍的に向上させるには従来の材料である「シリコン」の物理限界を超える新材料の普及が鍵となります。炭化ケイ素（SiC）、窒化ガリウム（GaN）、ダイヤモンドなどです。いずれも製造自体が極めて難しい上、航空機並みの高性能化と自動車部品並みの低コスト化という相反する条件を満たさなくてはなりません。私の研究室では、2000℃という超高温下でのナノテクを駆使した独自の原子の配列制御技術を切り口として、次世代の“モノづくり”による社会への貢献を目指しています。

西川俊夫（にしかわとしお）さん

岡谷市（岡谷南部中学校）出身

1985年　静岡大学　理学部卒業
1987年　名古屋大学大学院　農学研究科博士（前期）課程修了
　　サッポロビール（株）応用開発研究所
1988年　名古屋大学農学部　助手
1995年　名古屋大学より博士（農学）学位取得
1999-2000年
　　ドイツ Stuttgart大学留学（客員研究員）
2004年　名古屋大学農学部　助教授
2008年から現職
＜現在＞
名古屋大学　大学院生命農学研究科　教授

生物は様々な分子（これを天然物と呼びます）を作って生存のために活用しています。私たちの研究室では、この天然物を人工的に作る化学合成（有機合成）という技術を磨いて、天然物の謎の解明に挑戦しようとしています。

たとえばフグ毒テトロドトキシンは、古くから研究されてきた天然物ですが、現在でも幾つもの謎が解明されずに残っています。実はフグはこの毒を生産しておらず、微生物生産した毒が食物連鎖よってフグに生物濃縮されています。しかし、その生物濃縮の仕組みは全く分かっていません。また、微生物が何のためにこの毒を作っているか、どのように作っているかも全くの謎です。この分子は数mgで人を死に追いやるほど強力な毒性を示しますが、その仕組みは分子レベルでは未だ十分解明されていません。近年、この仕組みを利用して、副作用の少ない鎮痛剤を開発しようとする創薬研究が活発です。フグ毒は、とりわけ化学合成が困難と言われる分子ですが、私たちはこの化学合成に成功した世界でも数少ないグループの一つで、化学合成を駆使し、これらの謎に挑戦しています。天然物の謎解きは、サイエンスの基礎から応用に繋がる重要な研究テーマなのです。

北條浩彦（ほうじょうひろひこ）さん

辰野町（辰野中学校）出身

1990年　九州大学大学院　博士課程修了（理学博士）
1991年　東京大学　医科学研究所助手
1992年　米国国立衛生研究所（NIH）留学
1997年　東京大学　大学院医学系研究科助手
2002年から現職
＜現在＞
国立研究開発法人　国立精神・神経医療研究センター　室長

私は、遺伝子の発現をコントロールする機能性RNAの仕組みを理解して、それを病気の診断、予防、治療に役立てる研究を行っています。私たち生物はDNAに刻まれた遺伝情報に基づいて、その形態や高度な生命機能を発現します。また、場合によっては病気に関わる遺伝子も発現します。

遺伝情報の発現には様々な因子が関わり、巧みな遺伝子発現調節によってコントロールされています。その様な遺伝情報の発現に関わる因子の中に、遺伝子発現を抑制する小さなRNA分子が存在します。それが、私の研究対象としている機能性RNA分子です。

具体的には、「マイクロRNA（miRNA）」そして「siRNA」と呼ばれているものです。これらの機能性RNAの仕組みを理解し、それを利用して病気（神経変性疾患やがんなど）の原因となる遺伝子を特異的に抑制する方法の確立や、病気と連動して変化する機能性RNAを見つけて診断・予防に役立てる研究を行っています。これらの研究開発から新しい「機能性核酸医薬品の創出」を目指して、希望の花の咲く日のために、日々研究活動を行っています。

ファシリテーターからひと言

みなさんは第二校歌８番を歌っているとき、どのような映像がイメージとして浮かんできていますか？

ああ麗水に金砂あり　　崑岡玉を出すとか
乱麻をたつの英傑は
其の地人士の精粋の凝りては出づと知るや君

「水」「金」「崑岡玉（＝石英）」は自然科学・地球科学の対象物。「乱麻をたつ」は複雑にからみ合っている物事を解くこと。「凝りては出づ」は、一団となって出現するさま。

言葉の意味を考えると、「日本を代表する精粋の科学者が、清陵からたくさん生まれること」を語っている歌詞だと思わずにはいられません。今回パネリストとしてご協力いただく科学者のみなさんやSSH（スーパーサイエンスハイスクール）である清陵高校の卒業生から、将来のノーベル賞受賞者が出て欲しいと真剣に考えている今日この頃です。　　矢崎治孝（84回生）

懇親会特別企画

岩波理恵（いわなみりえ）ミニコンサート

（歌手・タレント）

長野県下諏訪町出身。短大卒業後、国内線の客室乗務員を経て、芸能界へ。TVレポーター、アシスタントとして活動後、文化放送「走れ歌謡曲」のメインパーソナリティーをつとめる。「振りむかないわ」でCDデビュー、本格的に歌手活動をスタート。森高千里、松田聖子、高橋真梨子などのモノマネも得意。ファーストアルバム「ありがとう」発売中!

下諏訪町出身の岩波理恵さんのミニコンサートを開催します。トークや諏訪圏のうた「6本の心の絆」をはじめ、「泣いたカラスの子守歌」、「こんな夜はせつなくて」などを披露していただきます。また、かつて舟木一夫が歌った「希望の諏訪」も。懇親会のひととき、歌で故郷を想い、楽しい時間をお過ごしください。

会長就任に当たって

会長
平林千義（67回生）

藤森宏一前会長の後を引き継いで、昨年10月から会長を務めております、平林千義と申します。昭和20年12月生まれの67回生です。東京清陵会の会長としては、初めての戦後生まれという事になります。清陵では天文気象部に所属しておりました。東京清陵会には、2001年林尚孝会長の折、当番幹事をきっかけに事務局次長として参画して以来、小川会長、藤森会長のもと、事務局長、副会長と経験し今年で16年になります。この間、偉い、怖い、うるさい大先輩と血気盛んな後輩との調整役を努めてまいりました。

55歳で当番幹事を経験するまで、総会への同期の出席は1～2名、データ的には要注意学年でした。67回生は一人だけのときも何度かありました、そんなとき前後の学年と同席し、声を掛けられたり、逆に声を掛けたり、清陵出身というだけで直ぐに溶け込めました。年に一度、諏訪や母校の現状を知り、第一、第二校歌を全部歌うのが楽しみでした。諏訪清陵高校が社会の中でどんな立ち位置にあるかを知ったのもこの頃でした。昔、夜行列車で東京に出てきたあの頃と違って、2時間もあれば移動できる時代になりました。情報伝達の多様化、高速化、グローバル化、井の中の蛙は物心つく頃には大海を知ることができます。清陵の男女比率も拮抗してきたとか、向こうの二葉にときめくのではなく、校内でときめく時代のようです。昔に比べ、Uターンで諏訪に戻る人、故郷に残る人が増えている由、女性の動向も気になります。同窓会の主目的「親睦」、「研鑽」、「支援（母校への恩返し）」を常に念頭に置き、こんな時代に対応した同窓会のあり方を検討し、実行に移したいと思います。具体的には世代を考慮した各種交流の場の提供（総会、幹事会、新卒大学生の歓迎会、就活応援の会、社会人の会、女子会、ゴルフ会、趣味の会など）、160回を越す清陵勉強会の継続、会報（東京清陵会だより）発行の継続、ホームページの充実、母校への講師派遣、附属中学研修旅行見学場所選定への協力、事務局体制としての委員会制度の確立、財政基盤と収支均衡体制の維持です。

皆さんのより一層のご支援とご協力をお願いいたします。

もっと交流を

前会長
藤森宏一（63回生）

昨年の定時総会を以って東京清陵会会長を平林千義さんにバトンタッチ致しました。皆様方から賜りました同窓会活動に対するご理解とご協力に感謝しお礼を申し上げます。

ここ数年、東京清陵会を活性化するワーキンググループの活躍により、行事が増えたこともあり、出席者がどちらからと言えば当番幹事学年以前の年次に偏っていたものが、学生、若手同窓生や女性が増えて、交流が活発化し望ましい姿になってきました。

近年、交流会、交流ツールや価値観の多様性等から同窓会に対する関心が薄れ、若年層の同窓会離れが言われてきましたが、本会の運営を担っている役員を始めワーキンググループメンバーと当番幹事の皆さんの企画力と献身的な活動が、新しい参加者を増やした要因だと思います。

満55歳を迎える人生で最も多忙を極める時期に、会報発行と総会を取り仕切る当番幹事を担うのは厳しいとの意見もありますが、疎遠であった同期生や先輩後輩との再会や同期会が活発になるなど、幹事を経験しなければ得られない良い機会だと思います。負担は重いと思いますがこの制度は是非継承したいものです。

清水が丘で18歳までの青春時代を過ごした同期生や先輩後輩と郷里の風景を思い出しながら、行事に参加し交流することは、たとえ卒業以来疎遠であったとしても、会った瞬間からすーっと話題が繋がり打ち解けられるのも同窓会の良さだと思います。清陵卒業生は幅広い分野で活躍していますが、その活躍ぶりを知る機会がほとんどないのではないでしょうか。行事で交流することにより、その一端に触れることができるのも同窓会だと思います。昨年秋、附属中学３年生の東京への研修旅行では、先輩がいる大学や勤務する企業を、東京清陵会メンバーの力添えで訪問見学し、卒業生の活躍ぶりに、伝統のすごさと清陵生のネットワークの広さを感じてくれたようでした。

皆さん、東京清陵会の行事を通して、同期、先輩、後輩ともっと出会い、交流をしてみませんか。

東京清陵会役員（任期　2016年11月～2018年10月）

会長	平林　千義	（67回生）	会計幹事	小海　健治	（84回生）	事務局次長	岡本　徹	（83回生）
副会長	長田　宏子	（62回生）	監査幹事	今井　恒夫	（57回生）	事務局次長	赤羽　俊昭	（84回生）
副会長	守矢　早苗	（67回生）	監査幹事	有賀　朝彦	（63回生）	事務局次長	清水　信次	（84回生）
副会長	原　大	（73回生）				事務局次長	佐藤　美智子	（88回生）
			事務局長	北原　譲	（82回生）	事務局次長	荒木　健太郎	（99回生）
			事務局次長	小林　國利	（62回生）			
			事務局次長	関屋　孝行	（76回生）			
			事務局次長	矢崎　理恵	（81回生）			

諏訪清陵から――

特集

出版＝活字文化の未来を考える

諏訪清陵から出版＝活字文化の未来を考える場合、岩波書店との接点を語らずには始まらない。創業者・岩波茂雄は諏訪郡中洲村の出身で、1895（明治28）年に創立された諏訪実科中学校（現在の諏訪清陵高校）に入学。1899（明治32）年に上京、1913（大正2年）に神田区南神保町で岩波書店を開いた――。岩波書店から始まったとも言える諏訪清陵の出版文化。新進気鋭の作家インタビュー、雑誌編集長鼎談などで、出版文化の過去、現在～未来を考察する。

岩波書店の思い出 寺島敏郎さんインタビュー

――寺島敏郎さんは長年、岩波書店の校正部で仕事をされていらした訳ですが、どんな思い出がありますか？

「岩波茂雄さんを初めて見たのは、５歳ぐらいのときだったでしょうか。中洲村に帰郷しての帰り道で上諏訪の町を通りかかった岩波茂雄さんを母が指さして、『東京で出版社を創業した立派な方よ。郷里の誇りね』とつぶやいていたのを記憶しています。旧制諏訪中学の歴史の先生が岩波文庫をとにかくほめちぎっていましてね。その先生の影響からか、本が大好きだった私は昭和25年、18歳で岩波書店に入社しました。入社後の若いころは、昼に校正の仕事をして、夜は早稲田大学の夜学に通っていました」

――本づくりの仕事で苦労した思い出は？

「広辞苑の第2版の校正には大変な苦労がありました。辞典は日本語の根幹をなす非常に重要な本ですから間違いがあっては大変です。校正作業の真価が問われます。二百人余の研究者に語彙カードの原稿を依頼して、まず手書き原稿の誤字脱字などをチェックする。それを元に印刷業者に活字を組んでもらい、でき上がったゲラ刷りを原稿と照らし合わせて再びチェックする。当時は今のようなコンピュータがありません。金属の活字の組み換えや差し換え作業が工程に加わりますから、組み間違いや脱字が多く、それを校正するのも大変な仕事でした」

諏訪市立信州風樹文庫
岩波茂雄記念室を併設。現在、岩波書店刊行の大正2年から昭和21年の書籍の収集活動をしており、協力を呼び掛けている。
諏訪市中洲3289-1　☎0266-58-1814

――手掛けた本で印象深いのは？

「本の質の高さでは福沢諭吉全集が印象深く記憶に残っています」

――岩波書店で出版された本で、多くの若者に読んで欲しいと願う本は？

「雑誌『世界』の初代編集長である吉野源三郎が書いた『君たちはどう生きるか』ですかね」

――諏訪清陵高校の同窓生や在学生に伝えたいことはありますか？

「諏訪市中洲にある『信州風樹文庫』の存在は知っておいて欲しいです。岩波書店から出版された昭和22年以降の全図書を所蔵する日本では唯一の専門図書館です。ぜひ、一度足を運んでみて下さい」

――活字文化についての所見をお聞かせください。

「岩波茂雄の遺志で、中国侵略への反省を込めた文化交流事業の一環として岩波書店の刊行物を中国の5つの大学に寄贈しています。活字文化は思想を伝達し、相互理解を深める重要なメディアです。平和や反権力の砦でもありますね。世界には6000以上の言語がありますが、それぞれの言語には民族の歴史が刻み込まれています。日本語は同音異義語が多い。例えば『ツイキュウ』という言葉。利益をツイキュウするときには『追求』、美や真実をツイキュウするときには『追究』、犯罪や責任をツイキュウするときには『追及』と書き分けます。若い人たちには日本語を大事にして欲しいし、出版に携わる者には基本的人権を守り抜く姿勢を貫いてもらいたいと思います」

――ありがとうございました。

お話をうかがったOB

寺島敏郎さん
（50回生）
1932年生まれ。1950年に岩波書店に入社。46年間校正の仕事一筋で過ごし、8年間は役員を務めた。退職後は日本エディタースクール講師などを歴任。

寺島亮三さん
（58回生）
1935年生まれ。寺島敏郎氏の実弟。商社勤務の後、1962年に岩波書店に入社。校正部勤務。東京清陵会だより編集顧問。出版業界に幅広い人脈を誇る。

諏訪清陵の出版業界人脈 寺島亮三さんインタビュー

――諏訪清陵高校出身者で岩波書店に関係する人物を教えてください。

「創業者はご存知のように岩波茂雄です。諏訪実科中学校（諏訪清陵高校の前身）の第1回生。同窓生で岩波の社員だったのは、私が知る限り、北澤富治郎（21

回生)、東京支部の事務局長だった保延醇一(41回生)、営業部の長田昭二(46回生)、校正部長の寺島敏郎（50回生)、編集部の高林良治(52回生)など。58回生は、辞典部長の宮坂英朋、湯川秀樹監修の『講座物理学』を担当した片山宏海、『日本古典文学大系』のスタッフ田中得一、『全集黒澤明』の寺島亮三と4名。65回生の伊藤寛明、74回生の天野泰明が最後で、その後同窓生の入社はないですね」

――何か諏訪清陵高校にまつわる岩波書店でのエピソードはありますか？

「長靴にリュック姿の牛山正雄先生が上京、決まって岩波書店に立ち寄りました。私はその都度、受付に呼び出されました」

――岩波書店以外で同窓生の出版界の人脈を知っていたら教えてください。

「1990年に50回生の宮坂広作と中村平治、57回生の岩垂弘が世話人で、『清陵勉強会』が開かれることとなり、その事務局を矢崎悦郎（59回生)とで担当した折に、三省堂社長、五味敏雄（57回生）が会議室を無償で貸してくれて助かりました」

――他に出版業で活躍した人で知っている方はいますか？

「岩波映画製作所設立に加わった小口禎三(36回生)、国連の要職も務め著書も多い波多野里望（50回生)、集英社で美術本を手掛けた弓削純一(57回生)、学習研究社の社長小松敏郎（58回生)、小学館で編集長だった樋口信也（63回生）など」

――ありがとうございました。

その他、出版業界で活躍した同窓生として――武居俊樹（63回生）小学館『少年サンデー』編集部、加藤旻夫（68回生）芳文社『まんがタイム』編集長、伊藤文博（70回生）山と渓谷社『山と渓谷』編集長、川村典弘（84回生）婦人画報社『メンズクラブ』副編集長、大森隆（87回生）実業之日本社『実業之日本』編集長、浅香淳子(87回生）集英社『MAQUIA』編集長、雨宮邦幸（88回生）アスキー『TVチョップ』編集長、塩川みすず（88回生）日経ホーム出版『日経WOMEN』編集部など。現役では、小田慶郎（87回生）文藝春秋出版部、宮坂賢一（89回生）日経BP、高山れおな（90回生）新潮社『芸術新潮』編集部、北条真由美（98回生）マキノ出版『安心』編集部などがいる。

※文中敬称略。独自調査により判明した分のみ掲載しました。

SPECIAL INTERVIEW

アガサ･クリスティー賞受賞作家　「新･古典派」の旗手

三沢陽一さん 特別インタビュー

――「新古典派」を自称していますが、その意味内容を簡単に説明して下さい。

「『新古典派』とは、古典的な名作の良さを踏まえながらも、半歩進んで新しさを付加し創造する作風のことです。流行雑誌のように読み捨てられるのではなく、本棚に永遠に残してもらえるような作品、時代や世代を超えて語り継がれ、読み継がれて行くような作品を目指したいという強い願いから、そう自称しています」

――三沢さんの作品の魅力は、ミステリのトリックの巧妙さはもちろんですが、詩的な文体のクオリティの高さにある気がしたのですが？

「ミステリとひと口に言ってもいろんな要素がありますが、小説としても成り立つような、ミステリと小説が両立している作品の魅力を持ち味にしたいと考えています」

――芥川賞のような純文学にも志があるのではないですか？

「最終選考の男という訳じゃないですけれども、純文学、SF、格闘技ものなどさまざまなジャンルの作品を書いて応募していました。だけど、結局ミステリを一番読んでいましたし、一番な得意なミステリでの受賞が決まり、とても喜んでいます」

――好きな作家、影響を受けた作家は誰ですか？

「連城三紀彦さん、泡坂妻夫さん、山田風太郎さんの三人が特に好きです。『華を殺す』(2015年/角川書店）は、敬愛する連城三紀彦さんのオマージュとして執筆しました」

――ミステリとの出会いはいつでしたか？

「中学の国語の先生がミステリ好きで、横溝正史の『八つ墓村』を貸してくれて、はまりました。そのころから江戸川乱歩とか高木彬光の『神津恭介シリーズ』とかを読みふけりました」

――高校時代の思い出を聞かせて下さい。

「諏訪清陵高校在学時は、学校の授業の予習・復習と受験勉強が中心だったことは皆と同じですが、余暇の楽しみ方としては、読書と卓球が半々くらいだったでしょうか。卓球部だったのですよ。ミステリは年間ランキング上位の本を片っ端から読んでいました。受験勉強の合間にどうしてミステリにあれだけ没頭できたのか自分でも不思議です。当時、五味寛人先生（64回生）という名物教師がいて、柄谷行人の『言葉と悲劇』とかを高校生の私たちに読ませたのですよ。他にも小林秀雄とか加藤周一とか……。今思うと、大学生でも難しい本をよく高校生に読ませたな、と感慨深いです。理解はできていなかったでしょうが、若い頭脳に貴重な読書トレーニングを与えてくれたことには感謝しています」

――今回の受賞を五味先生に報告できる日が来るといいですね。

三沢陽一さん（102回生）

1980年岡谷市生まれ。1999年東北大学法学部入学。2005年東北大学大学院法学研究科修士課程修了。2013年『コンダクターを撃て』で第3回アガサ・クリスティー賞を受賞。受賞作を『致死量未満の殺人』に改題して早川書房から出版。2014年『アガサ・クリスティー賞殺人事件』（早川書房）を出版。

書籍を出されているOB･OG特集

“本”は「書籍」または「書物」と呼ばれる。「書籍」は「書物」に比べると、やや高尚なイメージがある。1964年のユネスコ総会で採択された国際的基準によると「本とは、表紙はページ数に入れず、本文が少なくとも49ページ以上ある印刷された非定期刊行物」と定義されている。同窓生で“書籍”を出版している活字文化の担い手たちを可能な限り集めてみた。

「火の砦」（上･下）

大久保智弘（69回生）著

●二見書房

慶安四年、三代将軍家光治政下の江戸に奇妙な噂が流れた。「将軍様が病いで今日明日の命らしい」と。麒麟児と謳われた剣客・早野小太郎が謎の騎馬軍団に襲われ凶変が訪れる…。

「なぜ一流の男は匂いまでマネジメントするのか?」

五味常明（71回生）著

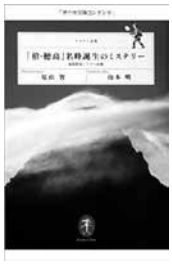
●かんき出版

臭いの問題はその人から自信を奪い、ビジネス上の人間関係にも大きな影響を与える。臭いがビジネスや人間関係に与える影響、臭いが発生する原因、体臭の緩和方法を解説。

「『槍･穂高』名峰誕生のミステリー」

山本　明、原山智（74回生）著

●山と渓谷社



槍ヶ岳、穂高岳はどのように誕生したか。信州大の原山教授と山本さんの清陵山岳部コンビが山をめぐりながら謎を解いていく。良書選定を受けた名著。ミステリー仕立てで読みやすい。

「アナザヘヴン」（上･下）

飯田譲治（81回生）著

●角川書店

殺した人間の首を切断し、脳を料理して食べる不気味な連続猟奇殺人事件が発生。前代未聞の猟奇殺人事件に、飛鷹健一郎と早瀬学のふたりの刑事が挑むサイコサスペンス巨編。

「よくわかる介護保険のしくみ」

牛越博文（84回生）著

●日本経済新聞出版社

「地域包括ケア」や「24時間定期巡回」の開始で大きく変わった介護保険制度。改正内容、介護報酬見直し、医療･介護･地域の連携の中長期的な展望をわかりやすく図解で解説。

「いのちのスタートライン」

大久保淳一（86回生）著

●講談社

42歳の働き盛りを突然襲った睾丸ガンの告知。生存率20%以下の死の淵で奮い立たせたのは、100kmウルトラマラソンへの再挑戦という途方もない夢だった。感動のガン生還記。

「『青』のコミュニケーションで人生を変える」

中島啓子（90回生）著

●経済法令研究会

幸せな「青のコミュニケーション」で人生を素敵に彩ることができる。新進気鋭のコミュニケーション･トレーナーが、顧客との信頼関係を築くための実践的プログラムを幅広く紹介。

「間取りの恋愛心理学」

高木希奈（99回生）著

●三五館

恋愛や仕事が好転する住まい方と悩める人間関係の改善方法を精神科医の観点から指南。住まいの環境を変えて運命の人との出会いに成功した8つの実例エピソードを紹介。

その他にも……

氏名（敬称略）	回生	書名
林　尚孝	52	「仮面の人･森鴎外」
岩垂　弘	57	「ジャーナリストの現場―もの書きをめざす人へ」ほか
竹内邦光	59	「そびゆる樹々の譜―信州の音楽人」
二木　隆	60	「めまい専門医が教える『めまい』をスッキリ消す本」ほか
小林和男	62	「白兎で知るロシア―ゴルバチョフからプーチンまで」ほか
武居俊樹	63	「赤塚不二夫のことを書いたのだ!!」
白川浩司	64	「オンリー･イエスタデイ1989」ほか
平林良人	66	「真!品質経営実践シリーズ　ISO 9001改正の『こころ』」
宮坂　覺	66	「芥川龍之介と切支丹物」ほか
春山明哲	68	「近代日本と台湾」ほか
藤森照信	68	「近代日本の洋風建築」ほか
功刀正行	69	「海の色が語る地球環境」ほか
大久保智弘	69	「孤剣、闇を翔ける」「水の砦―福島正則最後の闘い」ほか
伊藤洋一	71	「情報の強者」「ITとカースト―インド･成長の秘密と苦悩」ほか
五味常明	71	「ニオイで女性に嫌われない方法」「汗とにおい対策で女子力UP!」ほか
朝倉一善	73	「医者もおどろく“奇跡”の温泉」「クスリのいらない仏教健康法」ほか
山本　明	74	「地図と写真から見える!古事記･日本書紀」「よくわかる くずし字」ほか
小池康博	76	「最新フォトニクスポリマー材料と応用技術」ほか
小口多美夫	77	「遷移金属のバンド理論」ほか
武井一巳	77	「スマートフォン その使い方では年5万円損してます」ほか
五味弘文	79	「憑き歯～密七号の家」ほか
篠原菊紀	81	「ボケない頭をつくる60秒活脳体操」「1日5分 朝の脳トレ習慣」ほか
飯田譲治	81	「ミステリークレイフィッシュ」ほか
後藤克典	83	「CG世界遺産アーカイブ 古代エジプト」ほか
牛越博文	84	「医療経済学入門」「これだけは知っておきたいドラッカー」ほか
大久保淳一	86	「いのちのスタートライン」
中島啓子	90	「『青』のコミュニケーションで人生を変える」
柳澤寿男	93	「戦場のタクト―戦地で生まれた、奇跡の管弦楽団」「バルカンから響け!」
高木希奈	99	「あなたの周りの身近な狂気」「女医が教える飽きないエッチ」ほか
山田孝太郎	101	「ファイアーエムブレム 覇者の剣」「聖剣の刀鍛冶」ほか
三沢陽一	102	「致死量未満の殺人」「アガサ･クリスティー賞殺人事件」ほか

※本・書籍などを出版されていて、ここに掲載されていないOB･OGの方もいらっしゃるとは思いますが、確認できた方だけの掲載となりました。ご理解・ご了承のほど、宜しくお願いいたします。

元・現 編集長 鼎談

「意味付与」という根源的な活字文化は未来永劫生き続ける

「出版業は斜陽産業だ」と言われて久しい。特にハードカバーの単行本の売上不振は、業界の悩みの種だ。そうした中で、諏訪清陵高校の出身者で、編集長という要職に就き、出版業界を支えて来た実績のある３人に活字文化の未来について自由に語り合ってもらった。

出版業界を志した動機と経緯

――自己紹介を兼ねて出版業界を志した動機や経緯をお話しください。

白川「学生時代に出版社を志していた訳じゃなかったです。東大文学部の周りの連中はマスコミ、新聞社、放送局を志す人も多かったですが、自分には大組織は無理、小さな出版社ぐらいが性に合っていると思っていました。何社か出版社を受け、最初に決まったのが文藝春秋です。文藝春秋は作家が作った会社だから性分に合っていました。会社の輪郭がはっきりしない、細かいことを言わない、そういう会社で、結果的に自分にはベストマッチだったと思いますね。作家の三島由紀夫が自衛隊市ヶ谷駐屯地で自決する直前に『革命哲学としての陽明学』を収めた『行動学入門』を編集し出版したら大反響を呼んだ。それから仕事が面白くなりました。『週刊文春』や『文藝春秋』の編集部、出版部等を経て、1988年に『諸君！』の編集長。ベルリンの壁が崩れ、昭和天皇が崩御した激動の時代でした。1991年に『文藝春秋』の編集長になって、翌年6月号に細川護熙氏が立ち上げた日本新党の『新党結党宣言』を掲載。小池百合子さんがマドンナとして登場したのはその時です。細川氏の日本新党ブームは大きなうねりとなり、ついに55年体制打破に至りました。自分の編集した雑誌が世論を動かす原動力の一助になったかどうかは不明ですが、言論の力を感じた時代でした」

白川浩司（しらかわひろし）さん（64回生）
元「諸君!」「文藝春秋」編集長

1943年、茅野市玉川出身。玉川中学から諏訪清陵高校、東京大学文学部卒。

佐藤「父親が新聞記者で、それを間近に見て育ったので、高校のころは新聞記者になりたいと思っていました。大学時代に飲み食いしていたところに雑誌取材で美人モデルを連れた記者とカメラマンが入って来て、こういう仕事もあるのか、と漠然と魅かれたことを覚えています。主婦の友社は『雑誌記者募集』の広告を見て、“記者”の二文字に目が止まり受けてみたら受かりました。『主婦の友』の記者から始まって、『Gals life』という雑誌の担当を３年ぐらいやり、それが休刊になったので新雑誌編集部に異動。当時はバブル景気がまだ続いていて、ファッションカタログ雑誌が全盛。光文社の『JJ』、小学館の『CanCam』、講談社の『ViVi』が主流で既にシェアを取られていたけれど、主婦の友社でも広告がたくさん入る雑誌を作らないといけないということで、女性ファッション雑誌の『Ray』を出すことになり、その副編集長を６年務めました。その後、女性ファッション情報誌の『ef』の編集長や『Cawaii！』の編集長を務め、出版部部長、編集担当取締役を経て、今は関連会社の社長をやっています」

小口「子供のころから本が好きで、本の仕事に関わりたいと思っていました。小説家になりたいと思っていた時期もあり、清陵高校在学時は『文学部』という部活動に入って小説を書いたりしていました。京都大学で『推理小説研究会』に入りましたが、周りにのちに作家になるような才能のある人が多くて、自分は編集者を目指そうと光文社に入社しました。1991年の入社でバブル経済がはじけようとしていたころでした。『週刊宝石』の記者から始まった訳ですが、一番印象深い年は1995年です。阪神・淡路大震災とオウム真理教の地下鉄サリン事件が重なった年で、その取材で駆けずり回っていました。2001年に『週刊宝石』が休刊することになって、『小説宝石』の編集部に異動。途中、単行本編集部に一時移って、2009年に出版した松本侑子さんの『恋の蛍　山崎富栄と太宰治』（光文社刊）が第29回『新田次郎文学賞』を受賞したときは嬉しかったです。その後、『小説宝石』の編集長になって2016年まで務め、光文社文庫の編集長に移りました。現在は月に15冊前後の小説を文庫本にする仕事が中心で、いかに充実したラインナップにするか頭を悩ませています」

活字だからこそできること

――少し前までは電車の中で本を読んでいる人もいたのですが、最近は風景が様変わりしています。漫画本すら読む人が少なくなりました。スマートフォンの普及でゲームに熱中する姿は出版業界にとっては、ある意味で逆風です。そうした中にあって、活字だからこそできるこ

と、活字メディアだからこそいいと思える部分についてどうお考えですか？

白川「グーテンベルグの活版印刷以来の大革命の時期に来ていると思います。スマホは情報の伝達技術としては確かに速いです。ニュースのヘッドラインなんかは瞬時に伝わります。でも、それは断片的な情報で、相互の関係性や深く掘り下げた意味なんかはわからない。今は深く掘り下げて考えることが少なくなって来ているのではないかと思います。言葉で読み、書くことによって、深い意味を探り、時間的にも空間的にも歴史的にもつながって見えてくるものがあるはずですが、今は断片情報だけでわかった気になってしまう。人類、社会、歴史が変質してしまう漠然とした危惧を感じます」

――断片情報が回転よくまわった方が資本の回転が良く、結果的に稼げる。効率重視の風潮があります。意味付与という活字文化の根源的な部分が薄れて来ています。いつしか「稼げなければ意味がない」といった妙な固定観念が支配的になっていることに先行き不安を覚えます。

白川「この世に“問題”はなくならないから、その“問題”の意味につい考える言論活動や活字文化は一定規模で残ると思いますよ。でも、現在の出版社や業界人のすべてが生き残っていけるかは疑問ではあるけれども……」

佐藤「活字で書かれた小説を電子ブックで読んだりもしますが、読んだときの感動や高揚感はありますから、活字文化自体はなくならないと思います。でも電子ブックだと残り何ページみたいな感覚がないので、印刷された本で読むのとは感覚がだいぶ違いますね。ファッション雑誌のことで言うと、毎月23日が女子大生雑誌、28日がOL雑誌の発売日で、その日に電車に乗ると売れ筋がだいたい分かったのですが、今は電車に乗っても雑誌を読んでいる人をほとんど見かけない」

――ファッション雑誌は写真が重要ですよね？

佐藤「ケータイの通販で服を売るというビジネスが始まったときに、スマホのこんな小さな画面の写真を見て買う人はいないと思っていました。ブラウス１枚買うのに8000円とか1万円とか払うので、体型が細く見える、顔が小さく見えるなど、いろいろ考える訳です。イメージを伝える写真は重要ですが、キャプション（解説）の方が選ぶ基準として大事だったりします。それは活字でないと伝達できない部分。でも、今は980円とかの安売りが台頭して来て、いろいろ考えずに3枚買っちゃえとなります。そうなるとファッション雑誌の存在意義がなくなります。だから今は雑誌の固定的なファン層にターゲットを絞り込み、それを逃がさないように特異な編集にこだわるようになって来ています。そのことが特定の層をターゲットにしたい広告の獲得にもつながって来ます。薄く広く大量にではなく、狭く深く特定層と結びつく絆を深める方向へと戦略が変わって来ています」

心に響く
多品種少量生産の時代

――部数を際限なく伸ばす大量生産の時代から、特定層の心に響く多品種少量生産の時代に移っているのでしょうか？

佐藤「料理や子育ての本を作ったこともあるのですが、今はインターネットのSNS情報で雑誌顔負けの無料情報が氾濫していますから、お金を払って買う記事を書くのは困難なことになっています。でも、インターネットの情報は多過ぎて断片的だから、羅列された中なら選ぶことができません。そこに系統立った意味づけをする、比較検討の選択の基準を提示することで情報雑誌の存在価値が逆に生まれているような気もします。いろんな物を雑多に集めただけでは駄目で、専門的な人の情報、特化した物を絞り込んでアピールしないといけません」

――今の話の流れだと、特定のファン読者層をつかむことが、小説の場合は特に大事だと思うのですが？

佐藤一彦（さとうかずひこ）**さん（76回生）**
元「ef」「Cawaii!」などの編集長

1954年、埼玉県出身。上諏訪中学から諏訪清陵高校、早稲田大学第一文学部卒。

小口　稔（おぐち　みのる）**さん（89回生）**
元「小説宝石」現「文庫編集部」編集長

1967年、岡谷市出身。岡谷南部中学から諏訪清陵高校、京都大学文学部卒。

小口「推理小説だったら東野圭吾さん、書下ろし時代小説だったら佐伯泰英さんという風に、多くのファンを持つ作家に原稿を書いてもらうことの重要性は変わりません。ただ、そういう読者の心をつかめる作家が減っているのも事実で、中堅ヒット作を増やしていき、その中から次代の人気作家をいかにして育てるかに腐心しています。ノベルス全盛期に小説界を支えていた赤川次郎さんとか西村京太郎さん、内田康夫さんたちが売れていた時代に、東野圭吾さんは下積みで力を蓄えていった訳で、そういう次世代作家を育てていくことが編集者としての醍醐味であり、そこで力量が問われます」

メディア・ミックス戦略

――私が大学生のころから、小説を映画化して、その映画を見た人が原作の本を買うように仕掛けるメディア・ミックス戦略が始まったのですが、その点はどう考えていますか？

小口「それは今でも同様で、活字メディアへの入り口として、他分野とのいろんなタイアップを考えることは重要です。私もオタクの一員ですが、映画とか漫画とかアニメとか、オタクと呼ばれる人たちがそれらを見て原作に興味を持ち、活字媒体に戻って来るといったことは明らかに増えています。教育の現場でも、幼稚園で母親による幼児への読み聞かせとか、小学校の始業前の読書タイムの設定とか、盛んに本に触れ合う機会を増やしているようで、若い世代の読者も少ないなりに増えているようです。親でもある編集者との会話の中で、子供たちが本に興味を示し始めている手ごたえを感じているという話も聞こえて来ています。確信ではなく、期待も込めての話ではあるけれど、“読む”ということに対して関心の高い世代が再び生まれて来ている気がしています。本を読む際に感じる質感を求める人間の本能みたいものが根底にあるのではないでしょうか」

――本の質感。ペラペラとめくる肌触りの良さは紙に印刷された本ならではです。

小口「最近は映画界やテレビ界の人たちから、この雑誌収録の短編はいつ本になるのかという問い合わせが多いです。彼らは映像化する原作を常に求めていて、マイナーな小説雑誌まで読んでいるのかと感心させられます。お互いのニーズがマッチし始めたということでしょうか。漫画の実写化は原作キャラクターのイメージを損なうと漫画ファンが怒り出すということもありますが、小説の場合は活字での説明でそれを読み手の想像力に任せているので、実写化する際にはイメージを損なうことが少なく、映像を作る側にとってもありがたいのではないかと思います。映像メディア全盛の中で、原作としての活字文化の可能性の一端がそこにある気がします」

電子書籍の動向と可能性

――電子書籍の動向と可能性についての考えを聞かせてください。

白川「電子ブック端末の普及で電子書籍の売上はかなり伸びています。司馬遼太郎さんなんか、最初は電子書籍を嫌がっていたのだけれども、そうは言っていられなくて全面許可に至った。そうしたら売れるのですね。やっぱりそれなりに」

――出版社サイドからすると、印刷や製本、流通コストがかなり低減できるメリットが大きいのではないですか？

佐藤「返品リスクがないことが大きいですね。売れ残りの心配がないですから」

白川「在庫リスクがないことは経営・管理面で大きなメリットです。出版業は著作物管理の倉庫業を兼務している業種です。そのランニングコストだって経営面では馬鹿にならない」

――出版業界の未来展望をどうお考えですか？

白川「紙ベースの印刷された本と電子書籍とを合わせても、全体の売上は落ちています。一時隆盛を極めたコミックブームが去って下火になったことが大きいですね。それにバブル経済が弾けて雑誌の広告収入が激減しました。経営面では、この2つが大きく足を引っぱっているのが現状でしょう」

活字文化の未来

――活字文化の未来についての本音を聞かせてください。斜陽産業とまでは言わないまでも……。

白川「いや、明らかに斜陽産業ですよ。日本経済は1989年までは右肩上がりだった。そこでピークアウトして、経済成長は止まる。出版業界だけが例外じゃないでしょう。ただし、元々その程度の世界だった、とも思いますが」

佐藤「かつては編集者が読者のみんなに教えてあげるみたいな空気がありました。でも情報化の進展で一般の人たちの方が出版側よりも詳しくなりました。相当に専門特化したものじゃないと商品価値がない時代になりました。業界の未来は厳しいけれども、特定の層ではあっても訴える意味を生み出す活字文化は生き残っていくと思います」

小口「小説宝石の編集長時代には、定期雑誌以外に別冊を作り、それに掲載した中から推理作家協会賞を受賞するような作品や新たな作家が生まれたりしました。新しい試みを行い、そこから才能を生み出すことが未来につながります。諏訪清陵高校も同じで、伝統的に受験勉強に直接役に立たない“変なこと”を授業でも部活動でも教えられ、それが今の自分に生きています。そういう普通じゃない変わり者を生み出す校風が未来を作るのだと思います。在校生にはとにかく文字を読んで欲しい、と願っています。それがすべての土台になるでしょうから」

――本日はお忙しい中、ありがとうございました。

〈構成／清水信次　取材･文／藤森　弘　撮影･上田克郎〉

東京清陵女子会

「第2回オンナだけの大集会」女子同窓生、楽しい交流の時間

2017年6月10日、89回生、関俊一郎さんが営む「bistro BARNYARD（ビストロ バーンヤード）」にて、東京清陵会女子部の同窓会開催！ 40代から80歳まで17名が集まり、美味しい料理とお酒を楽しみながら、交流のひとときが持たれた。

美味しい料理をいただきながら歓談。どのテーブルからも笑い声が響き、お酒も進む

和やかに、楽しく語り合い 互いの生き方に刺激される

会場は銀座一丁目のビル7階にある「bistro BARNYARD」。店に入り、舞台となる一角へと向かう。明るい陽射しが差し込み、華やかな通りを見下ろせる席に、集まってきた参加者たちのテンションも上がる。

同期をはじめ、さらに広い世代と交流できる会にと企画された「オンナだけの大集会」。まずは、同期や世代の近いメンバーごとに着席し、歓談の時間。

その後、自己紹介をかねて、今はまっているもの、頑張っていることなどをテーマに、各自がフリートーク。仕事や家族、子育てのこと、話はそれだけに留まらない。宝塚に歌舞伎、旅行、ワイン、健康やダイエット……。それぞれの話に惹きつけられ、共感する。特に、80歳の現在も現役で仕事を続けられている、59回生の金子道子さんをはじめ、長田宏子さん（62回生）、守矢早苗さん（67回生）らの話には、参加者の多くが刺激を受けたように思う。

清陵女子の先駆けだった高校時代の話も興味深かったが、女性らしさを失わず社会の中で活躍し、歩んできた道筋を垣間見ることができた。そして、70歳を過ぎてなお、新しいことにチャレンジし、筋トレや体力作りに励んでいるとお聞きすると、歳を重ねてもこうありたいと思わせられる。

後半は座席をチェンジし、くじ引きで決めたチームで対抗のゲーム大会。清陵や長野県にまつわるクイズに、年齢差を超えたチームで団結して取り組む。楽しくも本気の対戦に、清陵女子の気質が見えてくる時間でもあった。

あっという間の3時間。「もっと話をしたかった」という声があちこちから聞こえてくる。男女がともに活躍できる社会になったとはいえ、女性ならではの想いや悩みもある。そして、清陵女子という共通項を持って、女どうしでこそ語り合えることも。東京清陵会女子部、その存在意義を感じさせてくれる会だった。

女子同窓生の交流を深め、現役生のサポートも

東京清陵女子部は、佐藤美智子さんら88回生を中心に昨年設立された。その陰には、かつての女子部の存在を知る守矢さんからのお声かけがあったという。実は、佐藤さんのお子さんが通う学校の校長が守矢さんだったそうだ。広い東京の中で、そんな風に同窓生が出会う奇跡。さらに、守矢さんや長田さんが東京清陵会副会長を務めていた頃、佐藤さんが常任幹事になり、事務局から女子部立ち上げの話が持ち上がった。この経緯に不思議な縁を感じる。

東京清陵女子部では、世代を超えた交流を通じて、女子同窓生の活躍や足跡を知ることを第一歩とし、今後はさらに会員の希望を重視した幅広い企画を考えていくという。悩みを話せるような親密な交流や、テーマを設けてディスカッションができる会への進展。さらに、個人の興味や活動を生かした企画もと。SNSも活用しながら、会員数増加や若い世代の誘導も働きかけていく。また、東京清陵会や本部とも連携しながら、現役の諏訪清陵中高生へのサポート、講演なども予定している。

〈取材・文　大和田敏子〉

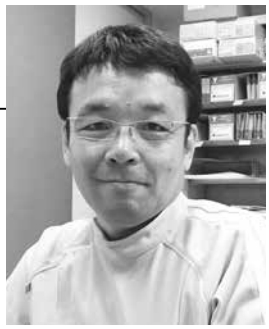
「おばあちゃんの味」のアップルパイの専門店
GRANNY SMITH（グラニースミス）
長野と青森の農家さんから届くりんごをたっぷり使った手作りアップルパイのお店です。
青山店 東京都港区南青山5-8-9
三宿店 東京都世田谷区下馬1-46-10
銀座店 東京都中央区銀座5-2-1 東急プラザ銀座B1F
横浜店 神奈川県横浜市中区新港1-1 横浜赤レンガ倉庫2号館1F
ONLINE SHOP 楽天市場から通販のご注文も承っております
株式会社ファンゴー
代表取締役 関 俊一郎（89回生）
WWW.GRANNYSMITH-PIE.COM

あなたの街のお医者さん

諏訪の地を離れて、医療を通して しっかりと地域に根をおろした 清陵出身のドクターたち

コミュニティと密接に関わり合いながら、地域医療に貢献する開業医。そのベースを生まれ育った諏訪ではなく、新天地に置いて務めていくのは容易ではない。清陵から巣立ち、首都圏各地で活躍する街のドクターたちの、清陵時代からこれまでをうかがってみた。

開業医としての理想を叶えた 清陵でつながるめぐり合わせ



小澤（おざわ） 弘（ひろし）さん（81回生）
オザワ整形外科

1959年生まれ。下諏訪中学から清陵に入学。産業医科大学、東京大学大学院卒業。同大学医学部付属病院、虎の門病院、東芝病院などの整形外科勤務。
●オザワ整形外科／杉並区高井戸西1-27-21
☎03-3333-8558

思い出されるのが、浜先生に学んだ数学の美しい解き方。3年間続けた自転車通学の途中、何回も先生の自宅まで訪ねたという。ドクターを志したのは、子供のころに読んだ『ブラックジャック』がきっかけ。その思いを抱き清陵から産業医科大学に進む。開業にあたり目指したのは、入院施設がなくても、体のパーツごとに専門医がいるような整形外科クリニック。その理想はようやく結実しつつある。だがここまでには、卒業後に出会ったOBを含め、清陵から生まれた人とのめぐり合わせも大きかったと振り返る。

サラリーマンにはなりたくないが きっかけの地域密着の歯科医師

岡本（おかもと） 徹（とおる）さん（83回生）
岡本歯科医院

1961年生まれ。茅野北部中学から清陵に入学。東京医科歯科大学卒業。川崎市向ヶ丘遊園、池袋などで勤務医を務めたのち開業。地元の子供たちに、高校時代に打ち込んだ剣道を教えてもいる（剣道教士七段）。
●岡本歯科医院／大田区鵜の木2-15-19
☎03-3759-4184

清陵時代は、狭い4畳半一間での下宿生活。昼休みは必ず地方会で集まって食事をしたことや、所属していた剣道部が、上下関係がなく楽しかったことを思い出すという。進学を考えたころ、サラリーマンにはなりたくない、東京に出たいと思ったくらいで、歯科医師を目指す理由はなかった。開業にあたり諏訪でなく、50年を超える歴史をもつ奥様の実家の歯科医院を選んだ。0歳から100歳を超える患者さんまでが訪れるだけに、患者さんとのコミュニケーションを大事にして、納得してもらえる診療を目指している。

清陵時代から目指した 天文学者から医師への転身

秋山（あきやま） 和英（かずひで）さん（84回生）
新川崎眼科

1962年生まれ。原中学から清陵に入学。東京大学理学部、同大理学系大学院、同大医学部卒業。同愛記念病院、東京都老人医療センターなどで勤務。
●新川崎眼科／
川崎市幸区新川崎5-2 シンカモール3F
☎044-280-6135

清陵時代は天文学者に憧れ、勉強に打ち込んでいた地味な生活だったという。思い出といえば帰宅途中にバイクで転んで足の指をケガをしたことかなと笑う。卒業後は東京大学で天文学を専攻。ところが天文学を極めていくことへの能力的な不安、他人に直接貢献したいという欲求。さらに理論は、結果、間違いでも良しとされる天文学への疑問。それらがドクターへの道へ導いた。眼科を選んだのは結果がわかりやすいから。力を入れる白内障手術も、終われば眼が見えるようになる。まさに秋山さんの理想とした姿だ。

在学中は悩んだ進路。 今は第2の故郷で患者と向き合う

古村（こむら） 雅利（まさとし）さん（90回生）
松葉町内科クリニック

1968年生まれ。辰野中学から清陵に入学。日本大学医学部、東京医科歯科大学大学院卒業。同大学医学部付属病院、柏市立柏病院などで勤務。
●松葉町内科クリニック／
柏市松葉町2-15-8 よしいビル1F
☎04-7137-1710

古村さんは子供のころから開業医である実家を継ぐものだと思い、清陵に入学。ところが天文気象部で朝から晩まで天文ドームにこもり、さらに出会った貴重な友人たちと、議論ばかりしていた日々。医学部へ進むことにも疑問を覚え、他の可能性があるのではと悩んだという。結局、紆余曲折はありながら、ドクターに。父が体調を崩したとき、子供が病気を罹った時期などと重なり、実家は弟に託し、子供が育った柏で開業。循環器を中心に、生活に近いレベルで患者さんやその家族とも接するつもりで診療を続ける。

〈取材・文／川村典弘〉

関東地区の開業医・医院

あなたの街のお医者さん

44回生	五味誠	馬込橋医院	内科、放射線科	東京都大田区中馬込3-26-8	03-3771-3509
63回生	赤羽根巌	赤羽根医院	内科、小児科、外科	東京都江東区東砂2-1-15	03-3648-3622
73回生	藤原浩彦	藤原歯科クリニック	歯科	神奈川県横須賀市長沢1-34-10-2F	046-849-4113
74回生	瓦井昭二	川入歯科医院	歯科	栃木県鹿沼市上石川1526-51	0289-76-3740
79回生	藤原理彦	藤原歯科クリニック	歯科、小児歯科、矯正歯科	神奈川県藤沢市善行2-20-4-1F	0466-83-2468
84回生	増田和恵	東陽歯科クリニック	歯科	東京都江東区東陽1-16-14	03-5606-8391
84回生	立木繁	嶋崎病院	整形外科	茨城県日立市会瀬町3-23-1	0294-36-7070
87回生	樺沢優利子	かばさわ歯科クリニック	歯科	群馬県高崎市中里見町76-4	027-374-6480
87回生	吉田敏英	吉田デンタルクリニック	歯科一般	東京都目黒区鷹番2-21-3	03-3711-9000
91回生	伊藤大助	洗足整形・形成外科	整形外科、形成外科、美容皮膚科	東京都目黒区洗足2-7-15-202	03-5704-7733

医療法人 **小泉チルドレンズクリニック**
（小児科専門医）
理事長 院長 医学博士 **小泉幸雄**（56回生）
〒316-0036 茨城県日立市鮎川町3-1-21
☎0294-35-8212　www.myclinic.ne.jp/koizumic/pc/

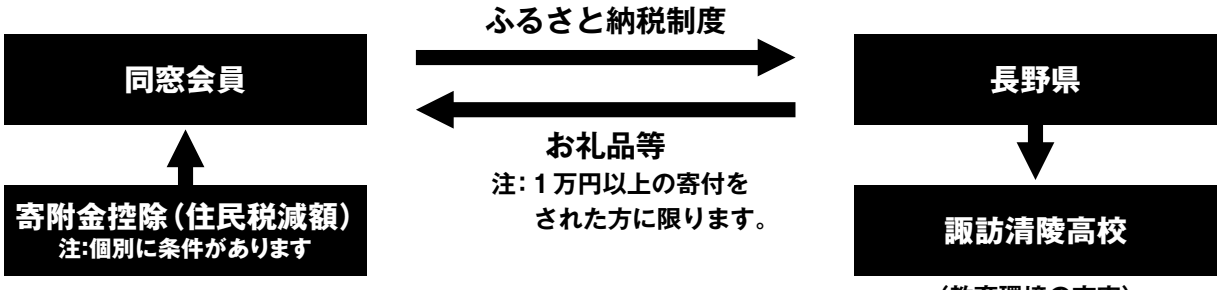
医療法人社団 **小池医院**
内科、外科、皮膚科、泌尿器科、胃腸科、理学療法科、美容外科、美容形成科
理事長 **小池清教**（73回生）
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-12-9
☎&FAX 03-3271-0813　www.koike-iin.or.jp

医療法人
くどうちあき脳神経外科クリニック
医学博士 理事長 院長 **工藤千秋**（80回生）
〒143-0016 東京都大田区大森北1-23-10
☎ 03-5767-0226　www.kudohchiaki.com

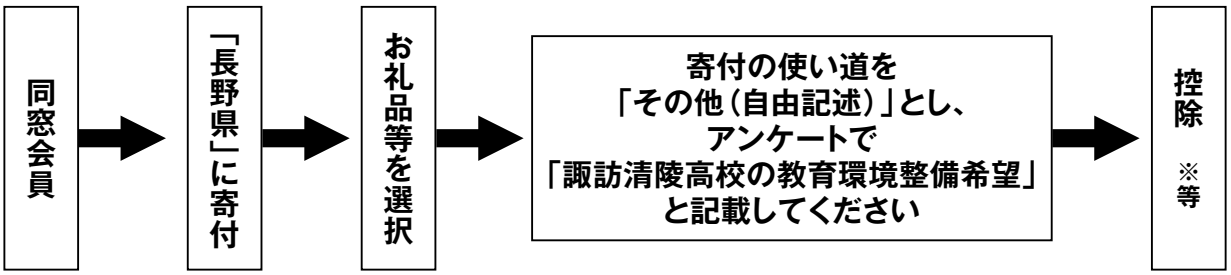
高輪歯科
加藤正治（86回生）
〒108-0074 東京都港区高輪2-16-53 伊皿子二番館 3F
☎ 03-3443-9900　www.takanawadent.com/

長野県外在住の同窓会員の皆様へ

ふるさと納税制度を使って間接的に母校への寄付ができます



下記のホームページから簡単に
さとふる　www.satofull.jp



※給与所得者は控除に必要な確定申告を不要とすることができます。
（ふるさと納税ワンストップ特例制度）

詳しくは　諏訪清陵高校事務室 までお問い合わせください。
TEL：0266-52-0201　Mail: seiryo-hs@pref.nagano.lg.jp

ぜひ一度は行ってみたい!

～OBが経営する飲食店特集～

清陵魂が見え隠れする、個性派ぞろい 時には昔を懐かしみ、美味しい料理とお酒を

店を取材した面々は、ひととき、ノスタルジックな気分に浸った。清陵卒という共通項がそうさせるのか、大切な思いや夢が去来する、そんな時間がふと訪れるから不思議だ。どの店にも、料理にお酒に雰囲気に、オーナーの想いや志が貫かれている。そこには、清陵らしさなどとひと括りにはできない魅力がある。同窓生とともに、家族や仲間とともに、ぜひ訪ねてみてほしい。

Bistro Barnyard Ginza

『ぐるナイ』でも使われた銀座一等地のお洒落な店。系列店が9軒もある

銀座にあるお洒落なお店。新鮮なオーガニック食材を使ったカリフォルニア料理と生産者ベースで揃えたワインが人気を集める。世界中の生産者の熱い想いを「Farm to table」という形で届けることがコンセプトだ。

オーナーの関さんは、多感な清陵時代の経験からUCバークレー校で学び、帰国後コンサルタント会社を経て、28歳で起業。学生時代の食事文化に刺激を受け、アメリカンスタイルの飲食店展開を模索。失敗を繰り返しながらも、清陵時代の自由な校風から培われた勇気と本質を見極める力で乗り切り、9店舗を展開するまでに発展。Globalで（世界中にあって）Universal（普遍的）なモノに価値を見出し、それを実現しようとする関さんはまさに清陵魂を具現化した侍のようだ。〈取材・文／牛山吉彦〉

●オーナーの関俊一郎さん（89回生）

「Bistro Barnyard Ginza」
東京都中央区銀座1-8-19 キラリトギンザ7F　☎050-5263-8623
営業時間／11:00～23:00（定休日なし）　客席数／110席
系列店:FUNGO（下馬）、FUNGO DINNING（西新宿）、CROSSROAD BAKERY（恵比寿西）、GRANNY SMITH（銀座、三宿、青山、横浜、池尻）

番外編

八重洲　扇寿し

昭和38年創業、新鮮素材を良心的な価格で同窓生にとって、東京での故郷のような店

83歳の小林さんは、息子さんと今も板場に立ち続ける。茅野市金沢の出身。大学卒業後、日本橋にあった兄の寿司店を手伝い、その後、独立。8人兄弟で弟たちの学費を稼ぐ必要があった。「清陵を出て寿司屋かと悔しい思いをし、夢もあった。でも長く続けてくると、これが自分の道だったのかと思う」と振り返る。新鮮さがモットー、変わらぬメニューで半世紀以上暖簾を守ってきた小林さんの言葉には重みがある。東京駅から徒歩5分ほどと抜群の立地、同窓生に広く利用されている。　〈取材・文／大和田敏子〉

●オーナーの小林誠三さん（旧姓、有賀）（55回生）

「八重洲　扇寿し」
東京都中央区八重洲1-5-8　☎03-3271-8508
営業時間／11:00～13:40、17:00～22:30　（定休日／日、祝日）
客席数／1F 38席、2F 30席

諏訪二葉高校OGが女将の店

木花

全国から取り寄せる地酒と本格和食の店 長野県人会、清陵同窓生も広く利用

●女将の若松弓美子さん。父は清陵OBの若松厚宏さん（59回生）

旬を大切にした季節料理を味わえる店。全国から地酒を取り寄せ、信州の銘酒はメニューにある以外にも30～40種類。信州そば、信州サーモンや山賊焼きなど郷土料理もメニューに並ぶ。信州愛あふれる女将はアメリカの大学を卒業後、銀行に就職。その後、地元下諏訪の町おこし事業立ち上げに携わったという異色の経歴の持ち主だ。飲食店経営のスタートは吉祥寺のわずか1坪のテイクアウト専門店だったという。現在は「木花」を営む一方で、下諏訪町のお土産店のほか、地元での事業にも携わっている。　〈取材・文／大和田敏子〉

「木花（このはな）」
東京都千代田区内神田3-5-3 矢萩第二ビル1F　☎03-3254-4533
営業時間／11:00～14:00、17:00～23:00、土曜日16:00～22:00
（定休日／日、祝日）　客席数／76席

〈撮影・上田克郎〉

THE HARLEY

交差点は人生の分岐点。そんな交差点にあるバイクと音楽とお酒のくつろぎのバー

店主の武井恭伸さんは、細身に髭を蓄えちょっと清陵OBぽくはないが、話してみると“自反而縮雖千萬人吾往矣”の人生のようで心地いい感じだ。

仕事帰りに気軽に飲めるお店が欲しいと、学生時代に過ごした高田馬場に2001年、33歳でお店をオープン。店舗は、大好きだったハーレーダビッドソンのガレージをイメージした。お勧めはバーボンと自家製ジャーキー。店内には諏訪大社のお札も掲げられている。

武井さんは、岡谷市出身で、岡谷東部中から清陵。高校では、意外とまじめだったそうで、硬式テニス部と人文部、それでもバンドや試胆会では弾けたそうだ。

「校歌を歌ったら一杯サービスしますよ」と武井さん。

ようこそザ・ハーレーへ。

〈取材・文／田中茂〉

●オーナーの武井恭伸さん（89回生）

「THE HARLEY」
東京都新宿区高田馬場2-1-1　☎03-5155-7280
営業時間／17:00～翌5:00（定休日／月曜日）　客席数／15席
★校歌を歌ったら一杯サービスします!

●オーナーの金子政喜さん（59回生）と店長の佐野正樹さん

海の幸

ネタはとにかくいいものを安く。築地仲卸をルーツとする寿司居酒屋

金子さんは大学卒業後、築地市場に勤務。25歳のときに海外青年派遣団の東京代表に選出され、南米を中心に世界一周の親善に赴いた。既存概念にとらわれず、海外から直接仕入れを行うなどして、仲卸のお店を大きくした。

1989年、富岡八幡宮近くの現在地にアンテナショップとして居酒屋を開業。その後、立地、経済情勢などを考慮して、寿司居酒屋を構えた。

お店は店長さんをはじめ、みなさんアットホームな雰囲気で、親切、丁寧に対応してくれる。

料理は「ネタと価格には自信あり」だそうで、おすすめは「まぐろ脳天」（要予約）、「ばくだん」など。お酒も純米酒をはじめ、日本全国からワンランク上の品揃えをしている。　〈取材・文／小口和彦〉

「海の幸」
東京都江東区富岡1-22-20　☎03-3643-0965　営業時間／月～土、祝前日11:30～14:30、17:00～23:00　（定休日／日、祝日）　客席数／105席
★29年度版「東京清陵会だより」持参で1品提供します!

けいの家 八王子本店

八王子に３店舗展開。北海道十勝の食材と地元の採れたて野菜を中心とした居酒屋

大学進学後の大手居酒屋チェーンでのアルバイトがきっかけで、25歳で正社員となり、店長を経て、35店舗を管轄するエリアマネージャーとなる。その後独立、2014年1月に「けいの家 八王子本店」を開業、2016年4月には「けいの家 八王子みなみ野店」、今年4月には「龍神丸市場」（三陸山田町直送の厳選食材を使用）をオープンした。

店のコンセプトは「農夫と海女の逢瀬」だそうで、野菜を「農夫」、海産物を「海女」にたとえ、地元・八王子の畑で採れた新鮮な野菜や、北海道・十勝直送の海産物、酪農畜産品を活かしたメニュー作りをしている。

また、お酒は諏訪の「真澄」「舞姫」を用意、さらに茅野の味噌を使った鮭のちゃんちゃん焼きも好評の一品だ。　〈取材・文／小海健治〉

「けいの家　八王子本店」
東京都八王子市明神町3-9-1　☎042-649-1724　営業時間／月～金11:30～14:00、17:00～23:00、土17:00～23:00　（定休日／日曜日）　客席数／65席
★29年度版「東京清陵会だより」持参の方に「刺し盛り」をサービスいたします。

●オーナーの北澤秀彦さん（99回生）は端艇部OB
●写真の右上は、4月にオープンした「龍神丸市場」

～東京で飲める諏訪の地酒～

楽しい時は諏訪の酒、辛い時も諏訪の酒 故郷の酒蔵をささやかに応援したい!

長野県の酒蔵数は新潟県に次いで全国2位で約80。しかし、小規模な酒蔵が多く全国的に流通する酒は多くはない。東京で諏訪の酒に出会える機会が少ないと嘆く声も。そんな思いに応えて、各酒蔵おすすめの店をご紹介！

本金（本金酒造・諏訪市）

信州産の郷土料理や地酒が豊富！

「海山和酒 なるたか」
文京区本郷1-15-2
三澤ビル1F
JR水道橋駅徒歩3分
☎03-5844-6775

松本市出身の店主の信州愛が強く感じられる店。長野県から直送される新鮮な野菜や鹿肉の料理は、特に人気を集めている。故郷を思い出させる「蜂の子とイナゴの甘露煮」もメニューに。日本酒は信州の地酒のみで常時20種類ほど。

舞姫（舞姫酒造・諏訪市）

日本酒が豊富で日本酒好きに好評

「そば酒房 笹陣」
千代田区神田駿河台4-3サンクレールB1F
JR御茶ノ水駅徒歩3分、千代田線新御茶ノ水駅徒歩2分
☎03-3295-5707

新潟のへぎそばをメイン料理とした、落ち着いた雰囲気の和風大衆居酒屋で年配客を中心に人気の店。日本酒は常時70種類以上。「舞姫」とのつながりは強く、店のオリジナル日本酒（PB）も舞姫酒造が製造している。

麗人（麗人酒造・諏訪市）

和風モダンの落ち着いた鶏割烹店

「美神鶏」
渋谷区恵比寿西1-3-10
ファイブアネックス2F
JRおよび日比谷線恵比寿駅徒歩3分
☎03-5459-5700

新鮮な鶏を使用した鶏料理をメインにした店で、博多の水炊き、炭火焼き鳥串が人気。日本酒はグランドメニューで10種、日替わりで3種。「麗人」は、フルーティーな香りの良さと米の甘みがしっかりした吟醸酒を提供している。

横笛（伊東酒造・諏訪市）

サラリーマンに人気の大衆店

「キンマル酒場」
台東区東上野3-15-10
JR、日比谷線上野駅徒歩3分
☎03-3837-1044

70～80年代の歌謡曲が流れる昭和の雰囲気が漂う店。150～190円とリーズナブルに提供される刺身は人気がある。店主が伊東酒造の関連会社に勤務していたこともあり、日本酒は横笛のみ6種類で、季節限定の酒も仕入れている。

真澄（宮坂醸造・諏訪市）

真澄の味を存分に堪能できる店

「秋葉原 真澄酒蔵」
千代田区神田佐久間町3-21-5
JR、東京メトロ秋葉原駅徒歩4分
☎03-3866-4040

秋葉原のガード下にある店。両親が宮坂醸造に勤務していた縁で、以前からあった同店を引き継いだ。日本酒は真澄のみ8種類ほどで、季節限定の酒も。バラエティに富んだおつまみとともに、真澄の美味しさをたっぷり味わえる。

高天（高天酒造・岡谷市）

明治22年創業の老舗寿司店

「築地寿司清 築地本店」
中央区築地4-13-9
日比谷線築地駅徒歩5分、都営大江戸線築地市場駅徒歩3分
☎03-3541-7720

江戸前の伝統と技術を引き継ぎ、リーズナブルにお寿司を提供。築地場外ならではの新鮮なネタを堪能できる。日本酒の種類は5～6種類。なかでも「高天」の扱いは長く、都内にある築地寿司清グループ店舗の多くで提供している。

神渡（豊島屋・岡谷市）

鮮魚料理が魅力の落ち着いた店

「らかん茶屋」
世田谷区経堂1-23-13
興輝ビル1F
小田急線経堂駅徒歩4分
☎03-3429-2230

元寿司職人が営む魚料理中心の和食店。特に金華サバの料理（〆鯖、焼きサバ鍋など）が評判。日本酒は6～7種類。ワンコイン(500円)で飲める「神渡」は店主ご夫婦の思い入れのある酒で「獺祭」「陸奥八仙」と肩を並べる人気だ。

ダイヤ菊（ダイヤ菊酒造・茅野市）

季節料理が自慢の酒蔵ゆかりの店

「酒蔵 ダイヤ菊」
港区新橋2-16-1
ニュー新橋ビルB1F
JR新橋駅徒歩1分
☎03-3580-5375

1951年、先代店主がダイヤ菊酒造社長とともにオープンした直営店の流れを汲む店（現在は直営ではない）。ダイヤ菊は小津安二郎が愛した酒と、今も関係者やファンクラブの方が訪れる。信州から直送の馬刺しや野沢菜も人気。

夜明け前（小野酒造店・辰野町）

新鮮な牡蠣と魚介料理が自慢

「牡蠣入レ時」
新宿区新宿4-2-8
菊ビル1F
JR、東京メトロなど各線新宿駅徒歩2分
☎050-5591-0417

牡蠣だけでなく、魚介料理全般を楽しめる店。昭和レトロでアットホームな空間でゆったり過ごせる。日本酒は10種類ほど。長野県出身の会長は、長年、小野酒造店とつき合いがあり、都内5店舗全店で「夜明け前」を提供している。

信州のお酒がなんでも揃っている!

販売店併設で有料試飲ができる立ち呑みの店 おつまみももちろん、信州直送！

「酒蔵信州 信州おさけ村」
港区新橋2-20-15
新橋駅前ビル1号館 1F
JR新橋駅より徒歩1分
☎03-3572-5488

取材当日の「諏訪セット」は、横笛、舞姫、高天。メニューは月ごとに変更

試飲して気に入ったお酒を、併設の販売店で購入できるのもうれしい!

長野県の酒蔵の約9割と取り引きがあり、常時120～150種類の日本酒を販売。店内では、そのうち約80銘柄を飲むことができ、野沢菜、そば味噌、信州サーモンなどのおつまみと合わせて楽しめる。日本酒は単品での注文のほか、「諏訪セット」「松本セット」など地域ごとのセットメニューもある。自由に組み合わせて利き酒セットとして注文することも可能。また、長野県のクラフトビールも取り揃え、小売価格で提供しており、そちらも人気だ。

※下諏訪町の「御湖鶴」の蔵元、菱友醸造は、本年4月25日、長野地裁諏訪支部より破産開始決定を受けましたので、掲載を見合わせました。

〈取材・文／大和田敏子〉

特別企画

恩師を訪ねて…

～84回生担任教師インタビュー～

84回生の当時担任だった先生を訪ね、インタビューするというこの企画。その頃は遠い存在であった恩師も今となれば懐かしく、あの頃の恩師は自分たちのことをどう思っていたのか、どう対応していたのか、30数年振りに明らかにされる!?

※1部担任の山口美智雄先生と2部担任の菊池吉文先生は、ご逝去されました。

先生、勉強ってまだまだ終わらないんですね

私たちが清陵生だったその昔から、諏訪盆地をはるかに臨む見晴らしの良い高台に、今も植原先生のお宅はある。30年ぶりにお目にかかった先生と、奥様が招じ入れて下さった一室には、所狭しと書籍が並んでいる。

数年前に体調を崩された先生には、事前にお伺いしたいことをお知らせしておいた。先生のそばに奥様が座られ、改めて一つ一つの質問を、私の目の前で先生に読み聞かせたあと、用意してくださった答えを教えていただいた。先生もそれを確認するように、時おり言葉を発せられる。

2013年元旦の『長野日報』に、先生が地元の公民館を借りて無報酬で主催なさっていた「算数・数学教室」が取り上げられた。その教室で23年の長きにわたり、地元の子供たちに接し続けた先生から、「清陵生も共通一次試験が行われていた頃はおもしろかった」、「旧校舎の子供たちは威勢が良かった」と言っていただくと、共通一次試験3年目に当たる84回生として、自覚していなかった長所を褒められたような気恥ずしさを感じる。

苗字から連想する向きもおられるだろうが、先生は安曇野出身の内務大臣・植原悦二郎の親戚にあたる。小学校に入って間もなく迎えた終戦の混乱状態のなか、旧満州から苦労して引き揚げられたのち、松本深志高を卒業された先生は、奥様によく、「周囲の思惑など無視して、自分の言いたい放題のことを言うのが清陵生らしい」とおっしゃっていたとか。

そんな生徒たちを相手にしながら先生は、清陵時代に教壇で特に緊張を覚えることは「なかった」し、生徒への対応で苦労することも「なかった」。1978年の4月、入学したばかりの私たちに向かって先生は、「私は体が大きいから、黒板への字も大きく書く」とおっしゃったことを覚えているが、その冗談めかした言葉も、「言いたい放題」だった当時の我々を泰然として受け止めて揺るがなかった先生らしい言葉のような気がする。

その後、教えなくても自分でやる生徒が多かった清陵を離れ、教えなければできないが、教えさえすればできるようになる生徒たちと関わったことが、奥様の言葉によれば、先生にとって「本当にプラスになった」とのことで、その経験が前述の無償の私塾へと実を結んだ。

お宅の二階の廊下には、公共の施設では見かけても、個人宅では珍しい長机と、数脚の折り畳み椅子が窓に面して置いてあり、かたわらの書棚には、子供向けの本が何冊も備えられている。自宅を開放して、近所の子供たちに勉強をさせようと、お元気だった頃の先生が用意されたのだ。先生が早く体調を回復され、いつかここで、子供たちが勉強に励む日が来ることを願わずにはいられなかった。

取材は3時間を超えたが、最も身に沁みたのは、用意しておいた最後の質問に対する先生の答えだ。

かつての教え子に、今何を伝えたいですかと伺うと、先生は「親には電話をして声を聞かせるように」と答えられた。元気な声を親御さんに聞かせてやってほしい、子供には好きな道を歩ませたのだから、「そのくらいのことはしなくちゃね」と奥様も笑顔でそうつけ加えられた。

〈取材・文／赤羽俊昭〉

3部担任
植原 操 先生

松本深志高校卒。担当科目は数学。1977年から1988年まで11年間清陵高校で教鞭を執る。写真は塾が新聞に取り上げられた頃のもの。趣味は山歩きと野鳥の観察。諏訪市在住。

時代とともに、今風の都会的な高校になった

4部担任
木下芳英 先生

諏訪清陵高校48回生。教科は理科。1972から1998年、2000年から2001年まで27年間勤務。現在の趣味は写真撮影。岡谷市在住。

時折小雨のぱらつく生憎の天気の中、「とらや」の最中をぶら下げ、永遠の組長である林武彦君とともに木下先生宅を訪問した。先生は、わざわざご自宅下の道路で我々の到着を待ってくださっていた。実に三十数年ぶりの再会。

1990年に定年を迎えられ、その後非常勤講師を70歳でお辞めになってからすでに17年が経過しており、記憶も曖昧だとおっしゃる先生は、わざわざ年代などを記録したメモを準備してくださっており、先生の几帳面な性格が覗えた。

1972年4月に長野高校から43歳で母校に着任した当初は「世間から優秀であるとの評判の高い清陵生は果たして自分を受け入れてくれるだろうか？」と大変緊張され、生徒たちも、この先生はどんな授業をするのだろうと緊張した面持ちだったことを覚えているとのこと。

「着任した頃、先輩の先生から『昼休みは生徒の質問の時間だから、教師たる者、飯は昼休みに食べるな！』と言われ驚いたが、結局だれも来なかった。頻繁に研究室に生徒が質問に来るのは英語と数学で、当時の英語と数学の教師は大変だったようだ」と振り返る。そして、「クラスに女子が3～5名程度だった我々84回生の頃までは、校内をゲタをはいて闊歩するような、いわゆる『諏訪のバンカラ』の雰囲気が残っていたが、女子生徒が増加するにつれ、ハイカラな高校に変わっていったような気がする。旧制諏訪中学から清陵高校へ脈々と続いた古き良き（悪しき？）時代は84回生が最後くらいではないか？　やはり時代とともに女子が増えたことで、今風の都会的な？高校になったと思う」。さらに加えて、「だいたい5年サイクルでの異動が一般的な教員生活の中、1972年に着任以来27年間もの長きにわたって最後まで清陵の教壇に立てたことは非常に幸せだったと思う」と語って下さった。

「ウシマサ」「やーさん」など懐かしい名前も飛び出し、約2時間弱にわたり懐かしい話は尽きなかった。校則もなく学校手帳なる物も存在しなかった清陵は、あらゆる面で他の高校と違う学校だったなと改めて痛感した。親の理解もあり、おおらかないい時代だったといえばそれまでですが……。　〈取材・文／名取秋彦〉

健康であり続けるために何かを始めてほしい

5部担任
小池忠男 先生

諏訪清陵高校73回生。担当科目は保健体育。1977年から1989、2000年から2010年まで2度に渡り、通算22年勤務。最近は、家庭菜園、海釣り、ダイビングなどを御夫婦で楽しむことが生き甲斐。岡谷市在住。

Q　当時の清陵の印象は？
**　もしわかれば、今の清陵との違いは？**

――当時は、ウシマサなどの多くの名物教師がいて、旧校舎もあった時代、昔の清陵の姿を知る最後の時代。その後について誤解を恐れず言えば、女子生徒の増加に伴って学校も男子生徒も気を遣うことが増えて、全体として独自の道を進むような個性派が減ってきた印象かな。

Q　清陵生らしさ、というものが
**　あったとすればそれは何ですか？**

――『諏訪人気質』とでも言うのか、清陵生は自由で自立心旺盛な生徒が大半で、妥協や世渡りに長けた政治家よりも、理屈っぽく、信念を貫き通す学者向き。また喧嘩っ早いので格闘技的なバスケット向きといった感じかな。清陵は、そんな卒業生が将来多くの人と交わって活躍できるように講座制や移動教室を採用、マラソンが早く終われば自由な時間が増える120分体育等々、独自の道を歩んでいた。

Q　教壇に立って、
**　一番緊張したのはどんな時ですか？**

――普段の授業はないけれど、清陵祭前のアンケートで講師としての講演者「ヤー公」で選ばれて、小講演をするとなった時は、何を伝えようか本当に悩んだね。で、50枚くらいの原稿を準備したが、矢島子郎先生から「気を使わないでやれ」と言われて、人体の神秘について原稿なしで思う存分語れたのをよく覚えている。

Q　生徒への対応で、
**　苦労したことは何ですか？**

――我が道を行く生徒に対し、自分勝手と自由との違いを諭し、悟らせることは難しい。指導に対して、男子生徒は素直で文句も言ってくるが、女子生徒は一見従順だが、内心違うことを考えていたようだ。個性派揃いの5部で初担任となるにあたり、あらゆる情報を集めて熟慮し、根橋健治クンにまとめ役のルーム長になってもらった。

Q　50代半ばを迎えた教え子たちに、
**　今、何をつたえたいですか？**

――健康であり続けるために何かを始めてほしい。定年前から娘と夫婦で始めたダイビングでは普段見られない光景を目の当たりにできるが、判断ミスは死につながる。自然と真摯に向き合うことが重要になるね。　〈取材・文／大澤洋一〉

健康第一。楽しく日々を過ごしてほしい

6部担任
太田久吉 先生

担当科目は英語。1976年から1983年まで8年間清陵で教鞭を執る。現在も大町岳陽高校で英語の教鞭を執られている。趣味は、登山や家庭菜園。北安曇郡小谷村在住。

あずさ号で信濃大町駅に降り立つと、待ち合わせをした改札口で、太田先生は日に焼けた笑顔で迎えてくださった。

長野県南小谷にお住まいの先生は、今も現役で県立大町岳陽高校で英語の教鞭を執られ、硬式テニス部の顧問をされている。でもそれも今年度が最後だという。快晴のその日は、ちょうど大町農具川であやめ祭りが開催されており、先生はそこへ車で連れていってくださった。川沿いに満開のあやめと山つつじが色鮮やかに咲いている。続いて、北アルプスと大町全体を見渡せる展望台へとご案内いただき、その絶景に目を見張った。

その後、お昼ご飯をいただきながら、先生に諏訪清陵高校時代のお話をうかがった。私たち84回生の6部は、太田先生が初めて担任を持ったクラスであり、3年間お世話になった。

先生とは30年以上ぶりの再会だったが、それを感じることなく話に花が咲く。

Q　当時の清陵の印象は？
一番緊張したのはどんなときですか？

――諏訪清陵高校の生徒は授業に取り組む姿勢が凄かった。教壇に立つと、皆がシーンとして聞き耳を立てて話を待っており、ぞくぞくするような緊張を感じながら授業を行なった。身が引き締まり、教師冥利に尽きる思いだった。清陵生は自由で独立しており、教師が指導しなくても、自分たちで行動していた。伝統を重んじ、プライドがあった。それが清陵らしさだったと思う。

Q　苦労したことは？

――怒った記憶がなく、苦労はなかった。

Q　50代半ばを迎えた当時の教え子に伝えたいことは？

――健康第一で、体に気をつけて楽しく日々を過ごしてほしい。

昼食後、先生は安曇野いわさきちひろ美術館に連れて行ってくださり、帰りのあずさ号に間に合うように駅に送り届けてくださった。まるで高校生を引率する先生のようだった。当時と変わらず、私たちをいつまでも教え子として扱ってくださる先生に心が温かくなり、北アルプスのような清々しい気持ちで駅を後にした。 またぜひ先生にお会いしたい。いつまでもお元気でいてください。

〈取材・文／眞田明美〉

年をとっても思いやりや人を大切にする気持ちを

7部担任
清水昭雄 先生

諏訪清陵高校51回生。担当科目は英語。1977から1994年まで18年間清陵で教鞭を執る。現在は家庭菜園や奥様との旅行を楽しんでいらっしゃるとのこと。諏訪市在住。

Q　当時の清陵の印象はどうでしたか？
今の清陵との違いはありましたか？

――僕は旧制中学、新制高校合わせて6年間清陵にいたから、昭和52年に教師として清陵に戻ってきたときは「なつかしいなあ」と思ったよ。清陵生からは他校に比べて「清陵に入った」という誇りや自信を感じたね。談論会やホームルームで自分の考えを語ったり反論したり、お互いを認め合う楽しい時代だったね。今のように携帯などなかったけど、その分、上級生や下級生と対で話すことができたんじゃないかな。

Q　清陵生らしさというものがあったとすれば、それは何でしたか？

――よく質問に来たね。毎日英作文を書いてきた子がいて、添削して翌朝返したんだ。最初から英語ができたわけではなかったけど、現役で受かって高校教師になったよ。人間やる気になればすごいもんだね。もうひとつ、ウシマサ（牛山正雄）先生が体調を崩されて、代わりに端艇部の艇庫に通うことになったんだけど、部員が毎日遅くまで艇の修理をしたり、自分たちで桟橋を作ったりしたんだ。あれは清陵生でないとできないと思ったね。

Q　教壇に立って、一番緊張したのはどんなときでしたか？

――ほかの先生と進度を合わせるために、60分の中で英語の構文をどう図解するか考えていたね。自分で勉強して、教科書に載っていないようなことを質問する子もいたね。

Q　生徒への対応で、苦労したことは何でしたか？

――みなさんいい子だったから何もなかったよ（笑）。他校だと生徒係が謹慎期間を決めるのだろうけど、清陵では担任が反省文を書かせたり、保護者と面談して改心したかの判断をしたんだよ。これも自治の考えが強いからかね。

Q　50代半ばを迎えたかつての教え子たちに、今、何を伝えたいですか？

――働き盛りだから、まずは健康だよね。僕は69歳まで非常勤講師をしていて、何も考えていなかったけど、将来のことをぼつぼつ考えていくといいね。年をとってからも、人の話を聞く思いやりや、出会った人を大切にする気持ちを持ち続けてほしいね。

〈取材・文／小海健治〉

さまざまなジャンルで活躍するOB・OG特集

起業家としてアーティストとして 清陵で育まれたチャレンジ精神

清陵を卒業して、大学へ進み、そして社会に出ると会社員や公務員として日々を過ごす。大多数が選ぶ、このもっともベーシックな生き方に飽き足らず、会社を興したり、プロフェッショナルへの道を選んだ卒業生たちがいる。彼らの選択とそれを支えてきたバイタリティの裏側には、清陵で過ごしたそれぞれの3年間という時間が大きく影響しているのがわかる。

仕事が充実して楽しんでいるとき 清陵時代を思い出します

後町克彦（79回生）
トプソン株式会社代表取締役

1958年諏訪市生まれ。諏訪西中学から清陵へ入学。学校や先生からの束縛がない自由な校風が自立心を大いに育んでくれて、それが今も役立っているという。卒業後は中央大学法学部を経て、エプソンに入社。2005年にトプソン株式会社を起業。

商品知識をもつ派遣労働者のニーズは高い。エプソンで家電量販店を担当していたときにひらめいたビジネスだ。

後町さんが率いるトプソンは家電メーカーや量販店に、販売スタッフを派遣するのが主たる業務。少子化により、販売スタッフとして重用される35歳以下の人材不足や、国の派遣労働者に対する施策の変化など厳しい状況のもとで、会社を牽引する。そんな後町さんは清陵時代を振り返りこう語る。「地方会活動に清陵祭、さらに端艇大会に球技大会と、イベントが目白押しで、それぞれ一生懸命に取り組んでいましたね」。その当時、自分たちで考えて役割分担をして、イベントに取り込んでいたイメージが、ビジネスが充実して、楽しんでいるときの雰囲気と重なるという。卒業後は、中央大学に進み、エプソンに入社する。営業に携わりながら、35歳くらいには独立したいという思いをもって、社内ベンチャーをきっかけに現在の会社を興す。「自反而縮雖千萬人吾往矣という言葉は、大志をもち、一心不乱に突き進むと同時に、常に周囲に耳を傾けよ、という自戒としても、自分の中に息づいています」。

人とは違う個性を認めてくれる 風土が自分を支えてくれました

不破有紀子（96回生）
プロダンサー（上脇友季湖）

1974年下諏訪町生まれ。下諏訪中学から清陵に入学。ひたすら打ち込んだ吹奏楽部は、南信大会で上位に入賞する。東京大学理学部卒業。現在は大塚のダンススクールで講師をしながら、国内外のダンス大会に参戦を続ける。好きなダンスの種目はルンバ。

スクールでは柔和な講師だが、大会に臨めばプロダンサーの表情に。目標は全日本大会のファイナリストと語る。

ダンススクール講師を務めながら、ソシアルダンスのプロとして活躍する不破さん。「今思うと、人と変わっていてもそれが個性として認められる清陵の風土が、自分を後押ししてくれたと思います」と語る。「清陵では吹奏楽部で、ソロパートが多く、学年ひとりだけというオーボエの練習にひたすら励んでいました」。自身で分析する、夢中になるとのめりこんでしまう性格は卒業後の進路にもうかがえる。生物の武居先生の授業で聞いた“広げたらテニスコートくらいになる、人間の大腸の中を見たくありませんか”という話に触発されて、医学部でなくても人体解剖ができると聞いた東大理学部生物学科の人類学課程に進む。同時に競技ダンス部でダンスと出会うことになる。卒業後、一度は普通に就職するが、ダンスにもっと時間を費やしたいと、現在の道を選んだ。「ダンスは生もので、相手や音楽によって毎日違う化学反応が起きます。20年以上踊っても飽きないし、成長が感じられるのがうれしいですね」。

清陵にいたころは東京に行きたくて、行きたくて、仕方なかったです

〈撮影・上田克郎〉

池谷貴行（85回生）（左）
株式会社ティーサーブ代表取締役社長

田中　彰（85回生）（右）
株式会社ティーサーブ取締役副社長

ともに1963年生まれ。池谷さんは甲府市に生まれ、永明中学から清陵に入学。田中さんは岡谷市生まれ。岡谷南部中学から清陵に入学。卒業後は池谷さんが早稲田大学社会科学部、田中さんは明治大学文学部へ進むも、起業にあたり中退。大学時代にふたりで話した“まだ東京にはないものを作りたい”という夢を叶えた。メッセンジャーには清陵の卒業生も。

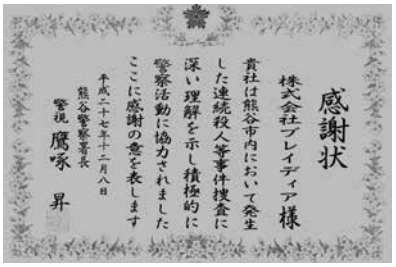
メッセンジャーの動きを本社でコントロールして、より早く、効率的に届ける。ふたりは今もその現場にも立つ。

都心で働くビジネスマンにとって、メッセンジャーサービスは今や欠かせない存在。その大手であるティーサーブを起業したのが池谷さんと田中さんのコンビだ。「勉強した記憶はなく、ふたりともサッカー部だったけれど、サッカーを一生懸命やったわけでもなく、授業を抜け出しては喫茶店でタバコを吸っていたことは覚えていますね。その頃は東京へ行きたい一心で、講習会にかこつけては東京へ行っていたな」と田中さんは清陵時代を振り返る。念願かなって東京の大学へ進学するが、ふたりとも大学は6年在籍。お金もなくこの先どうなるのだろうと途方に暮れていたとき、目をつけたのが自転車によるメッセンジャーサービスだ。当時ふたりは証券会社、PR会社でメッセンジャー的なバイトをしていた。「バイク便がはじまったころで、日経新聞にニューヨークには自転車のメッセンジャーが3000人もいるという記事を見て、これをビジネスにしようと決断しました」と池谷さんは振り返る。景気の低迷や、競合の増加と苦労も多いが、体力を使う厳しい仕事であるメッセンジャーを、見た目だけでなく、人のために役立つカッコいい仕事にしたい。こうしたふたりの熱い思いががティーサーブの躍進を支えている。

清陵祭に打ち込んだ時間が清陵で過ごした証ですね

山川祐矢（109回生）
株式会社ブレイディア代表取締役

1987年岡谷市生まれ。岡谷北部中学から清陵に入学。在学中はおもしろい遊びもなかったと話すが、自由な校風の中で、自分の問いかけに、思いもよらない答えを見つけてくれるような友人には恵まれたという。筑波大学第3学群卒業後、2014年に起業。


感謝状

株式会社ブレイディア様

貴社は熊谷市内において発生した連続殺人等事件捜査に深い理解を示し積極的に警察活動に協力されましたここに感謝の意を表します

平成二十七年十二月八日

熊谷警察署長

警視　鷹家　昇

修理を担当するのはパートナーの小林さん。優れたiPhoneのデータ復旧技術で捜査に協力して感謝状をいただいたことも。

山川さんが創業した会社、ブレイディアが、現在注力するのはスマホを中心としたデジタルデバイスの修理。全国25店舗で修理を受けつけ、さらにピックアップ、デリバリーも行う。そんな山川さんのビジネスパートナーである小林雄一さんも清陵の同期生。清陵祭の実行委員長が小林さんで、副委員長が山川さんだったという間柄だ。清陵時代は帰宅部で、目立つこともしたくなかったという山川さんは、小林さんから“くすぶっているなよ”と声をかけられて清陵祭実行委員会に参画。そこに集まった才気あふれる仲間たちと打ち込んだ時間は、清陵で暮らした記念のようなものだと振り返る。「校舎の壁に描いた桜のモザイク画や、一般の方向けに企画した清陵展とか、しばらく清陵祭のテンプレートになったはずです」。卒業後は筑波大学に進学。IT企業に就職した後、シンガポールで日系企業のトップも務める。「東京五輪も決まり、経済状況が好転して流れの生まれるところで勝負したいと思って帰国しました。楽しく稼いで、社会貢献できればという思いです。修理は古い産業ですが、資本主義が行き過ぎた今こそ求められるのではないでしょうか」。そして現在、故郷である岡谷に修理拠点も設けて、地域貢献にも第一歩も踏み出した。

〈取材・文／川村典弘〉

同期会活動紹介　～64回生～

飽きることを知らない元気者達

64回生の同期会は「ザザムシ会」と称します。昭和33年入学の64回生に由来しますが、天竜川に生息するあの珍味に比較されても負けない味わい深い侍が揃っています。

ザザムシ会東京支部には、関東一円に居住する人ばかりでなく、故郷の諏訪はもちろん、全国各地と海外に住んでいる人を含め63人の同期生が名を連ねていて、その中でも43名のメンバーが折に触れ連絡を取り合ってかなり濃密な付き合いを続けています。

1997年の第31回東京清陵会で当番幹事を務めた頃から徐々に同期生仲間が連絡を取り合うようになり、東中野で同期生が営んでいた居酒屋「わらじ屋」に集まるようになりました。ここの常連たちが2007年に毎月1回集合する「わらじ屋会」を発足させ、人が人を呼んでザザムシ会東京支部の中核をなすようになりました。2011年からこの月例会は場所を池袋の居酒屋「粋酔」に移し、名前も「粋酔会」として現在も毎月第三水曜日の午後4時から開催されています。

粋酔会（2017年4月）

第9回文化祭（会場設営）

第9回文化祭作品展

午後4時と言えば真冬でもまだ明るい時刻で酒盛りには早すぎますが、宴会に先立ってメンバーを持ち回り講師とする講演会をやっています。講演内容は趣味の世界の話からそれぞれが現役時代に蓄えた極めて専門性の高い話まで何の制約もありません。会員に人を得た幸いでなんと7年間80回以上も継続しています。約2時間の濃密な時間の後、6時からは自由歓談の飲み会に移り、各々の身辺情報から天下国家論議まで夜の更けるのを忘れさせる話題が続きます。

「粋酔会」は全てのザザムシ会会員に開かれています。関東地方の会員に加えて、諏訪、北海道、関西、それに海外に在住の方々も折に触れ顔を出してくれます。嬉しいことに「ザザムシ会」会長の山崎さんは出張の折にスケジュールを調整して時々参加してくれます。

第25回富士ゴルフ会
（2016年6月 富士ゴルフコース）

東京ザザムシ会は「粋酔会」を通して情報交換や様々な活動が実行されています。その活動は実に多岐にわたっていますが、特筆すべきは昨年までに9回を重ねた文化祭でしょう。毎年秋に江東区の豊洲文化センターのギャラリーで、会員制作の絵画、写真、書、陶芸、その他を展示すると共に、小ホールでギターやフルートの演奏会を開催しています。もちろん、パーティー付きです。今年は第10回になりますが、9月4日から1週間同じ会場で開催されます。皆様のお越しを歓迎します。

第9回海外旅行
（2016年11月　フィリッピンセブ島）

その他にも年5～6回のゴルフコンペ、毎年行く海外旅行、随時企画される国内旅行、ほぼ毎月の山歩き会など、会員相互の交流機会は頻繁に設定されています。その結果会員の中から「自分にとって最も大切な交友の場」との声がしばしば聞こえてきます。

東京ザザムシ会は「粋酔会」を中心に活発な活動を続けていますが、今後さらに開かれた粋酔会にしてより多くの会員が気楽に参加できるようにしたいと思います。

未参加の同期生の来会を心から歓迎いたします。　　（64回生　花岡忠史）

山歩き会
（2017年1月　鎌倉衣張山ハイキング）

いろいろな清陵会

「企業、そして部活で」

会社・企業のOB・OG会として、三菱東京UFJ銀行、KDDIなどがあります。また、部活動のOB・OG会も、剣道部などあり、その輪が徐々に広がっているようです。今回は、丸紅清陵会と音楽部OB・OG会を紹介します。

【丸紅清陵会】

丸紅清陵会は、昨年発足したばかりの若い会です。立ち上げのきっかけは、他社で清陵出身者の集まりがある会社があることを知り、「いいなあ、当社でもできないかなあ」と思い立ったこと。ちょうどその数日前に当社で長野県出身者の懇親会の初会合が開かれ、その名簿から当社の清陵出身者がわかったので、皆さんに声をかけ、めでたく「丸紅清陵会」がスタートしたわけです。メンバーは76回生から112回生までの5名です。

これまで折に触れ懇親会を開催し、杯を傾けながら、清水が丘の学び舎で過ごした青春時代の思い出話に花を咲かせてきました。興味深いのは、最大36歳の年齢差で話していると、清陵魂は同じでも、世代を超えてのいろいろな発見があることです。地方会の経験や民の踊り方など、今と昔ではずいぶん違っている面もあるようで、驚きました。

商社という仕事柄、海外転勤も多く、この夏から112回生の最若手がロシアに駐在することになりました。早速、歓送会を兼ねての集まり開催し、異国での活躍を祈念したところです。

まだ人数が少ない丸紅清陵会ですが、これから大勢の後輩が当社に入り、本会が隆盛していくことを願っています。後輩の皆さん、丸紅でお待ちしています！

（89回生　金子哲哉）

【音楽部OB・OG会】

高校を卒業して30年が過ぎ、初めてのOB・OG会を開きました。30年の長い時間は、当時の記憶の多くを消し去り、互いに今どうしているかも分からなくしていました。半年かけて、三学年にわたり約15名と連絡を取ることができ、開催することができました。

長い時間は容姿も変え、当日、会場に一人一人現れる度に、誰なのか分からない状態でした。しかし、みんなの昔と変わらない話し方、表情、仕草が、忘れしまっていた記憶を次々に呼び起こしてくれました。そのよみがえった記憶は、あの頃みんなと過ごした時間が、今の自分を作っているという大切なことを、改めて気づかせてくれました。

この年から三年連続で、音楽部OB・OG会を東京で開いています。前回からは当時歌っていた歌を、思い出しながらみんなで合唱しています。音楽部OB・OG会の方は、是非参加しませんか。下記アドレスにご連絡ください。

ongaku_seiryou@yahoo.co.jp

（85回生　秋山清隆）

八重洲　扇寿し

東京都中央区八重洲1-5-8 扇ビル 1F 2F
☎ 03-3271-8508
営業時間／11:00～13:40、17:00～22:30
（定休日／日、祝日）

小林誠三（55回生）

海山和酒　なるたか

海鮮と信州の郷土料理
信州のお酒が豊富な和風居酒屋

東京都文京区本郷1-15-2 三澤ビル 1F
☎ 03-5844-6775（東京ドームすぐそば）
営業時間／16:30～24:00
（定休日／日曜日）

学年会通信

「集まれ、我等が同期」

同期会が同窓会の原点、毎年継続開催を!

ここに寄せられたメッセージは、同期生への呼びかけであるに留まりません。他学年に対して自己主張を行い、他学年からの刺激をもらうという、SNSでは実現しにくい紙上ならではの空間なのです。

●76回生は、8年前の当番幹事のあと、毎月第三金曜に例会を開いてきましたが、ここのところ少々息切れ気味で、飛び飛びの開催になってしまっています。でも、あと2年で65歳を迎え、仕事を続けている者も完全リタイヤになる年回りになります。今は参加人数が少なくとも、再来年以降参加人数も増えてくるでしょうから、そうなった時に集まれる会を続けてゆくことが必要と思い企画しています。

そして、過去京都、金沢と続けてきた修学旅行第三弾を、再来年にはよりパワーアップした参加人数で開催できるように持っていきたいと考えています。継続は力なりです。今までは、忙しかったり、出にくかった仲間も、今後は第三金曜以外の開催も考えますので是非一度参加してみてください。そして、懐かしい話をしましょう。お待ちしています！

連絡先：taka.seki55@gmail.com

（76回生　関屋孝行）

●昨年度も前年度に引き続き、82回同期有志にて各種イベントを行った。

昨年7月には、同期6人と二葉同期2人と共に、新潟への合宿旅行を挙行。市場にてのバーベキュー大会から始まり、美術館、郷土資料館等を巡り、翌日には観光船遊覧等、盛りだくさんの充実の2日間であった。同7月、東京「八重洲扇寿し」に於いて、北原君発案で8人が集い、「諏訪清陵同窓生御用達の店」銘板（私が揮毫させて頂いた）およびボード贈呈式を行い、お店に対する日頃の感謝の意を伝えられた。

9月には諏訪湖新作花火大会鑑賞、11月には、中仙道板橋宿の歴史を辿る散歩会、本年1月には、目黒散歩会、その他、酒愛好会は頻繁、「ブラタモリ」ならぬ知的好奇心を満たし、大いに親睦を深めた。

今後も種々開催予定である。同期の参加大歓迎である。　（82回　篠原誠一）

●祥雲会（83回生）報告

昨年は当番幹事でしたので、6月の本部での総会・懇親会、そして10月の東京での総会・懇親会では大勢の同期生が集まることが出来ました。

また、東京での総会・懇親会は、皆様のご協力のお蔭をもちまして、なんとか無事に終えることが出来ましたこと、心より感謝申し上げます。

その後、4月の勉強会では同期の京都大学野生動物研究センター准教授中村美穂さんが講師ということで同期も多く参加しました。

今後も東京近郊在住のメンバーでの定期的な「飲み会」を開催していく予定です。

連絡先：tooruken@galaxy.ocn.ne.jp

（83回生　岡本徹）

●この学年会通信に短文を寄せるのも3回目。ついに自分たちがこの会報を編集・発行することになろうとは、半ば夢の中の出来事のようです。6月の諏訪での総会・懇親会も盛会のうちに幕を閉じましたが、その勢いに乗って、40年前に大きな偶然の力に導かれて机を並べた仲間たちと、大人の清陵祭とでもいうべき10月1日（日）の東京清陵会総会・懇親会に参加して、もう一度だけ清陵生に戻ってみませんか。

連絡先：toshakahane@gmail.com

（84回生　赤羽俊昭）

●我々99回生は、昨年2016年9月18日に卒業20周年同窓会を開催いたしました。おかけげさまで、恩師8名を含む95名の方に参加いただき、おおいに盛り上がりました。有志で4次会まで付き合ってくれる仲間もおり、最高の思い出となりました。今回は、同窓会幹事会社とFBを活用し、スムーズに同窓生と連絡が取れたため、多くの同窓生に参加いただくことが出来ました。今後も長野会と関東会と定期的に開催していきたいと思っております。（99回生　荒木健太郎）

●118回は今まで、新入生歓迎会の運営などに関わってきました。学年会などの交流の予定は特にありませんが、2017年は、11月26日（日）に「プレ就活」というイベントを企画しています。118回生の多くの人が大学3年となり、社会で働くことの意味などをそろそろ考え始める時期であると思うので、ぜひ、「働くこととは何か？」という問いに自分の中での答えを見つける機会にしていただけたらと思います。

（118回生　帯川恵輔）

●119回生は昨年度は何度か集まって食事をし、大学生になっても集まり、行事を行なってきました。今年度も何度かそれができれば良いなと考えています。これから忙しい人も出てくると思いますが、僕らの代同士での繋がりを大切に切らさないようにしていければと思います。

（119回生　平林蒼音）

新川崎眼科
Shinkawasaki eye clinic
〒212-0032
神奈川県川崎市幸区新川崎5-2 シンカモール3F
☎ 044-280-6135
shinkawasaki-eye.jp
秋山和英（84回生）

歯科一般・小児歯科・予防歯科
岡本歯科医院
東京都大田区鵜の木2-15-19
☎ 0066-9718-1843　03-3759-4184
www.localplace.jp/t200210318/index.html
東急多摩川線鵜の木駅1分
岡本　徹（83回生）

2016年度 総会・懇親会の報告

東京清陵会第50回記念 総会・懇親会を終えて

私達83回生は2016年度当番幹事として、東京清陵会会報および総会・懇親会の企画運営を務めさせていただきました。関係者の皆様方のご理解とご協力をいただき無事に終了できましたこと、厚く御礼申し上げます。ここに簡単ではありますが、前年度のご報告をさせていただきます。

【総括】

前年度は東京清陵会第50回の記念総会・懇親会ということで「清陵今昔」、「清陵女子」を主要テーマとし、会報では2大特集として取り上げ、記念品としてオリジナルラベル清酒セット「清陵今昔」、そして懇親会では「清陵アーカイブ」を企画しました。当日は中山千恵子さんによる「音楽を通じて時代に寄り添う」という基調講演、藤森敬一くん、守屋茂くんによる「ミニライブ」、それから懇親会という日程でした。

当番幹事としてベストを尽くして総会・懇親会の企画運営にあたりましたが、当日は総勢200人近くが出席してくださったので、ほっとしているところです。それでも反省すべきところは反省し、私達なりの総括を行いました。私達だけでは対応できない課題もありますが、それらを次年度に引き継いでいますので、東京清陵会のさらなる発展の一助としていただければ幸いです。

ここで、担当した皆さんからの一言を紹介します。　（岡本　徹）

【会報】

会報の編集に携わった、といっても、企画や内容の立案といった「アタマ」の部分には全く関与せず（にもかかわらず「編集後記」など書いてしまってすみませぬ）、野球の練習でいえば、グラウンドの整備や校庭の石拾いといった作業だけ担当しました。石拾いに熱中するあまり、何のために石を拾っているのかわからなくなったことも。できあがった会報の中に、拾い残した石の断片を発見して「無念」とつぶやいたこともあったような。そんなグラウンド整備係より一言。会報作成にご尽力くださった皆様、ありがとうございました。　（倉田重子）

【記念品（清酒セット）】

東京清陵会開催50回の記念品として、同窓会オリジナルラベル清酒セットを企画しました。「清陵今昔」をテーマとし、自治の精神を引き継ぎつつ時代と共に変化する母校の姿を、同期、後藤克典氏がCGグラフィックでデザイン。また、商標や酒税法の確認なども同期の協力を得て、幾多のハードルを越えながら、皆様にお届けできることができました。

オリジナル品の制作、販売までの道筋を立て、試飲などにご協力くださった宮坂醸造株式会社様、企画室の葛西様には、あらためて深く御礼申し上げます。

（眞道美恵子）

【総会基調講演】

「今年の東京総会では女性にスポットをあてたい」という幹事会からの依頼で原稿と基調講演を受けさせていただきましたが、男と女、性別の違いを意識していないからこそ清陵に進学し、女性だからという事を意識して仕事はしてこなかったので、講演内容に関してとても悩んでしまいました。幅広い年齢層の同窓会の皆さんに、音楽に特化した時代の推移をお話しする事の方が興味深いかな？と考え、アナログ～デジタル、パッケージビジネス、ライブなどを講演内容としました。いかがでしたでしょうか？

音楽はいつの時代にも人の生活に寄り添うもの。これからも音楽と共に歳をとって行きたいです。　（中山千恵子）

【総会ミニコンサート】

東京清陵会の総会で歌を披露する機会をいただき、大勢の同窓生に聞いていただけたことを大変光栄に存じます。同じ83回生でギタリストの守屋茂くんも加わってくれ、とても楽しく演奏することができました。青春時代の思い出の曲を交え、3曲演奏しましたが、中でも私が作詞作曲した「石の風車」は大変好評でした。後日「この曲のCDが欲しい」との問い合わせもいただき嬉しく思いました。これからも更に精進し、多くの方に私の歌を届けたいと思います。

（藤森敬一）

【懇親会】

28年度会報の企画として、5頁に渡る「清陵今昔」という記事を掲載しました。多くの先輩・後輩方からのそれぞれの時代の生々しい情報を整理した際の驚きや興奮を少しでも共有したいと思い、懇親会では会報からの連続企画として、クイズとインタビューによる母校の逸話辿り（清陵アーカイブ）を楽しみました。お酒も進み賑やかな中でのコーナーでしたが、現在の「金色の民」を映像で見たり、懐かしい思い出を語っていただいたりと、大変楽しい一コマになりました。会報記事と合わせて、ひと時、母校の歴史や魅力に想い至っていただけたなら幸いです。

（森　政宏）

ワーキンググループ活動報告

主催をサブ幹事学年、学生に移行し、各イベントが進化中

2012年から活動開始した活性化ワーキンググループも今年で6年目。5月の「新歓」では116回生以降、毎年20名近い新卒が会員登録、11月の「働く会」も二回目は対象を学生から若手に拡大、3月の「ミドル会」は、未来・目的思考でグループ談論会をするなど進化しました。「女子会」もパワーアップ！（P11参照）

「第2回働くことを考える若手の会」報告

2016年11月27日、剛堂会館において「第2回働くことを考える若手の会」が開催され、17学年から50名近い参加者が集まりました。この会の目的は、社会で活躍する先輩が若手社会人・大学生の後輩に対して「働くこと」について考えるきっかけを提供することです。

第1部の基調講演では、小口久雄さん（81回生、セガサミークリエイション代表取締役社長）が「楽しく生きる」をテーマに講演を行い、脳科学などにも触れながら「楽しさ」について論じました。第2部のパネルディスカッションでは、小口さん、鮎澤留美子さん（89回生、インテージシニアアナリスト）、藤森裕司さん（91回生、J.P.モルガン証券投資銀行部エグゼクティブディレクター）、赤羽貢さん（99回生、ウィルフ執行役員）が登壇し、やりがい・転職などさまざまな切り口から自身の経験や考え方を披露しました。第3部の交流タイムでは全員が少人数のグループに分かれ、自由に意見交換を行いました。

「働くこと」を軸に世代を超え交流が深まる会となり、終了後、参加者から「大変参考になった」など多くの好評の声をいただきました。（89回生　金子哲哉）

「理想の花は、どんな花まつり」実施報告

2017年3月5日剛堂会館にて、例年、ミドル交流会という名で開催している30代・40代向けイベントを、86回生が中心となり、今年は名称も内容も一新して開催しました。清陵OB・OGが限られた社会（職場、家庭など）の中で理想の花を定義しこれを咲かせるとはどんなことなのか。各々が自分の未来をどのように描き、ワクワクをどう作り実現するかを諏訪清陵同窓の仲間を通じて考える機会を持つ。

清水が丘で共に学んだ、清陵という共通のDNAを持った同窓会はこれらを体感できる有効なひとつの「場」であるのではないか。を会の狙いとし、前半は「未来」をテーマに、「歯科医学の未来」加藤正治氏、「デザインの未来」翠川真氏、「日本のエネルギー資源の未来」宮澤俊樹氏の3名（共に86回生）にお話いただき、後半は、86回生の武田正利氏を中心に、各グループに分かれ「目的工学を用いたフリートーキング」を行いました。20代の若い世代から先輩方まで40名以上の同窓生に参加いただき、私の同期も「参加したことにより刺激をもらった、今後何をしていくべきかが明確になった」と非常に有意義な時間だったと満足した様子でした。

（99回生　荒木健太郎）

第5回新卒歓迎会

今年の新卒生歓迎会では、120回生17人、先輩方21人の計38人とたくさんの方々に参加していただきました。先輩スピーチを116回生の石城さん、小口さん、109回生の山川さん、足助さんにしていただきました。大学生活、就職、大学院など、これからの過ごし方を考えるとても身のあるお話をしていただきました。また、自由交流をしていただき、先輩はもちろん、久しぶりに会った同期との交流を楽しんでいただきました。

新卒歓迎会は卒業した清陵生に会い在学中の時とは違う新たな出会いがあり、たくさんの意見を交えることができました。この新しい関係を作ることができるいい会になりました。先輩として参加した今年はこの会のほとんどを企画させていただき、今年のいい点を来年の新卒歓迎会に活かしていきたいと考えています。（119回生　平林蒼音）

東京清陵会による母校・生徒、郷里との交流・支援も本格化

今年度は同窓会活動の親睦・交流、研鑽に続く第三の柱、母校生徒との交流支援も本年度は本格化します。今春、初の卒業生を出した附属中学には、「地域交流講座」に講師派遣、「東京研修旅行」では職場見学を受け入れます。高校では7月の「学習合宿」に講師を派遣、11月の「キャリア教育」の場に講師派遣を計画しています。

附属中学の「地域連携講座」に講師派遣

8月26日（土）母校で開催予定。中学生や地域小中学生保護者ら250人程度を対象に開校以来開催されている講座。30人クラスとして講師と生徒の双方向のやりとりをします。昨年までは地元講師のみでしたが、本年度からは地元・東京から各4名の計8名の同窓生講師の派遣を予定しています。経営者、中堅層、若手起業家、女性など、生徒の要望も踏まえて講師を選定します。

附属中学の「東京研修旅行」の職場見学受け入れ

11月10日（金曜）に実施予定。昨年は総会当日、石城校長の依頼で急遽、10数社で受け入れました。本年度は、予め受け入れ可能な職場を登録、実際の生徒希望をもとに、訪問企業を決める予定。中学3年生、8人の10組が午前と午後、各2社、累計10から20社を訪問します。対応可能な企業等は、事務局（母校交流担当）に申し出てください。なお、生徒要望次第で訪問がない場合もありますのでご容赦ください。

進路講演会「医薬品の安全性業務と職場環境の変化について」

7月11日（火）の高校1年生、学習合宿に初めて企業人講座が開設され、2015年度に本部総会パネリストを務めた小松文美さん（JT、医薬情報部次長、91回生）に講師として登壇いただきました。

「現在、私は民間企業において医薬品による健康被害（薬害）を防ぐために製造・販売している製品の副作用情報を収集・解析して国に報告する業務を行っています。薬害エイズなど大きな社会問題になった薬害もこういった副作用の収集・解析によって見いだされてきたものです。講演会では、企業という言わば利益を追求する組織に属しながら社会貢献に寄与する仕事の意義について説明しました。さらに、私の仕事での経験を通して、最近の職場環境の変化についても触れました。特に、近年は世界各国から最新の副作用情報を集めなければならず、グローバル化や作業効率の改善に焦点を当てて説明しました。具体的な仕事の話と職場を取り巻く環境について触れてもらうことで、会社での仕事について生徒の皆さんがイメージを描いていただけたら幸いです。

（小松文美　91回生）」

高校「キャリア教育」の場への講師派遣

11月3日（金）母校で開催。高校2年生が対象。これまでは地元経営者、学者等が講師を務めてきましたが、生徒要望の多様化に応え、グローバル、多様な分野で活躍する同窓生がいる東京清陵会からの講師派遣依頼となりました。生徒の希望する中から10程度のテーマに分かれた分科会方式での開催を検討中。ご協力いただける方は事務局までお願いします。生徒の要望を踏まえて、講師依頼をさせていただく予定ですので、依頼しない場合もありますのでご了解ください。

諏訪市への移住に興味のある皆さんへ

参加者には諏訪を偲ぶ記念品を進呈します

◆日時　平成29年9月14日（木）
午後1時30分～（1時間半程度）
◆会場　銀座ＮＡＧＡＮＯ
※一押しの県産品を販売していま～す！
東京都中央区銀座5-6-5 NOCO 2F
TEL 03-6274-6015
東京メトロ銀座駅A1・B5出口から徒歩1分・JR有楽町駅から徒歩7分
◆内容　移住プロモーションビデオの上映・移住施策（補助金）等のご案内
◆対象　諏訪清陵高校・諏訪二葉高校を卒業され、首都圏にお住まいの方
◆申込み　不要。当日直接会場へ（事前に連絡頂いた方にはお席をご用意します）
◆問い合わせ　諏訪市 秘書広報課
TEL 0266-52-4141 内線350　担当／池上宗男 E-mail hisyokoho@city.suwa.lg.jp

けいの家 八王子本店
東京都八王子市明神町3-9-1 ☎042-649-1724
月～金11:30～14:00、17:00～23:00、土17:00～23:00（定休日／日曜日）

けいの家 八王子みなみ野店
東京都八王子市兵衛1-1-10 ☎042-683-4987
火～土11:30～14:00、17:00～23:00、日17:00～23:00
（定休日／月曜日）

龍神丸市場 八王子店
東京都八王子市旭町6-4 1F ☎042-649-7942
月～金11:30～14:00、17:00～23:00、土17:00～23:00（定休日／日曜日）

諏訪から2時間、東京からは1時間弱。
2014年に創業して、おかげさまで3店舗になりました。
「農夫と海女の逢瀬」をコンセプトに
地元八王子と十勝や三陸の食材にこだわっています。

東京清陵会の皆様への
お得な特典もありますので、
ぜひ、お越しくださいませ!!

株式会社 **開拓使**
代表取締役 **北澤秀彦**（99回生）

会費ならびに賛助金納入ありがとうございました

2016年度会費納入者ご芳名（2016年4月1日～2017年3月31日までに入金のあった方）（敬称略）

59回　津金 勝巳
59回　小川 勝嗣
59回　河西 敏行
59回　降旗 國臣
59回　小松 守
59回　城取 俊昭
59回　白倉 徹哉
59回　中川 良平
59回　矢崎 豊国
59回　宮坂 仁
59回　加賀美 久高
59回　桑原 敏次
59回　松澤 俊志
59回　中畑 龍三
59回　伊藤 忠三
59回　寺嶋 順仁
59回　矢崎 悦郎
59回　藤沢 修三
59回　小川 邦夫
59回　小林 昭夫
59回　向山 喜一
59回　金子 政喜
60回　小口 一老
60回　田口 稔
60回　福島 清
60回　丸茂 敬昌
60回　小松 寛之
60回　今井 將隆
60回　宮澤 政文
60回　篠原 健
60回　河西 千廣
60回　髙木 祥勝
60回　窪田 作栄
60回　増沢 豊久
60回　宮坂 博巳
60回　久保田 一夫
60回　小川 浩史
60回　中野 誠
60回　小口 英夫
60回　小口 征男
60回　五味 竹正
60回　堀内 進
60回　古村 哲也
60回　野沢 勲
60回　北原 本夫
60回　五味 十四昭
60回　池場 康友
60回　五味 良二
61回　瀬戸 明彦
61回　佐伯 三朗
61回　寺島 健司
61回　鋤柄 光則
61回　市川 澄渡
61回　中山 龍二
61回　横川 紀夫
61回　川村 昌平
61回　有賀 嘉信
61回　藤澤 玄雄
61回　北原 隆
61回　中村 隆一
61回　名取 将
61回　山嵜 宏三
62回　中島 澄雄
62回　上原 光典
62回　長田 宏子
62回　岩波 信夫
62回　秋田 英一
62回　山岡 洋二郎
62回　宮澤 生行
62回　三好 武吉
62回　金子 浩之
62回　両角 晃一
62回　牛山 保美
62回　柴田 司壽男
62回　北澤 夏司
62回　小林 國利
62回　河西 巳喜雄
62回　矢沢 征吾
62回　御子柴 義照
62回　松澤 洋充
62回　堀　浩泰
62回　藤森 汎
62回　薩摩林 俊彦
62回　山本 龍夫
62回　宮澤 生行
63回　松野 洋一
63回　倉本 實
63回　尾澤 弘久
63回　海野 肇
63回　河西 武彦
63回　米山 廸男
63回　伊藤 喜夫
63回　藤森 宏一
63回　亘理 美代子
63回　河合 信也
63回　山田 清重
63回　小池 三造
63回　髙木 宣輔
63回　徳留 淳朔
63回　溝口 登
63回　荒木 信行
63回　宮坂 尚利
63回　有賀 慧至
63回　小平 協
63回　小口 哲二
63回　金井 英雄
63回　伊藤 茂久
63回　斉藤 亨
63回　柳沢 寛
63回　守屋 憲一
63回　小口 明秀
63回　山田 勝稚
63回　中野 琢雄
63回　蜜澤 裕二
63回　五味 正得
63回　鎌倉 了
63回　有賀 朝彦
63回　清水 洋右
63回　丸山 佳広
64回　武井 省吾
64回　横内 稔
64回　水上 宏
64回　武井 元昭
64回　小林 宇夫
64回　清水 治弘
64回　林　博優
64回　祖父江 宏三
64回　笠原 碩昭
64回　仁科 眞爾
64回　川村 洋二
64回　長島 潔
64回　新村 恩
64回　垣内 直
64回　小平 清
64回　篠原 八耳
64回　花岡 忠史
64回　津金 健一
64回　海野 光三郎
64回　宮坂 秀
64回　井澤 正行
64回　酒井 捷夫
64回　小澤 俊
64回　金原 恵介
64回　平林 正稔
65回　小林 俊徳
65回　山岡 建夫
65回　今井 忠雄
65回　松田 昌憲
65回　春日 芳夫
65回　小松 功
65回　中野 明
65回　田中 揮一
65回　小林 功典
65回　松本 禎之
65回　関　紀雄
65回　伊東 郁夫
65回　河西 靖浩
65回　岩波 武功
65回　細川 直吉
65回　田久保 昇
65回　宮坂 孝康
65回　川口 誠
66回　丸茂 雅弘
66回　小口 治
66回　生越 万理子
66回　長田 敏行
66回　宮島 忠之
66回　河合 三彦
66回　樋口 宗司
66回　金丸 敏夫
66回　三澤 勲
66回　原　昭治
66回　降幡 賢一
66回　五味 洋
66回　徳永 忠次
66回　宮坂 典子
66回　武居 秀夫
66回　矢島 弘子
66回　林　央
67回　藤井 光子
67回　原 美津子
67回　落合 勝彦
67回　小林 三平
67回　野明 悠
67回　名取 省三
67回　丸茂 義典
67回　土橋 修平
67回　竹村 保俊
67回　細川 正行
67回　池上 志な子
67回　山本 金男
67回　笠原 久則
67回　小平 攻
67回　平林 千義
67回　三井 敏彦
67回　樋口 善一
67回　矢﨑 宣利
67回　守矢 早苗
67回　林　武昭
67回　笹岡 仟治
68回　古河 仁
68回　深澤 豊昭
68回　宮坂 満雄
68回　今井 長八郎
68回　名取 與平
68回　藤森 照信
68回　栗林 秀吉
68回　春山 明哲
68回　笠原 斉
68回　原田 盛夫
69回　宮部 敏秀
69回　茅野 泰幸
69回　花岡 善郎
69回　小口 牧通
69回　林 史章
69回　渡辺 泰弘
69回　柳平 三雄
69回　藤森 光彦
69回　一ノ瀬 輝海
69回　川村 美枝子
69回　矢島 正昭
69回　比田井 和子
69回　比田井 昌英
69回　宮下 安彦
69回　漆山 敏子
69回　功力 正行
69回　浜　照彦
69回　中村 正治
69回　武村 光男
69回　木下 健治
70回　斉藤 万比古
70回　米澤 英樹
70回　小口 隆夫
70回　石田 和夫
70回　竹村 善隆
70回　清水 英俊
70回　平山 哲三
70回　唐木 康正
70回　小林 和男
70回　髙野 敏男
70回　五味 憲一
70回　久保田 功一
70回　飯島 由美子
70回　浜　敬三
70回　功力 明美
70回　岩垂 進
70回　高岸 洋夫
70回　小林 金好
70回　中谷 敬
70回　中村 典男
71回　伊藤 洋一
71回　五味 常明
71回　浜　研一
71回　磯野 康子
71回　矢崎 照満
71回　岩本 達雄
71回　森 史朗
71回　森　さと子
72回　桑沢 元孝
72回　野口 俊樹
72回　御子柴 均
72回　新井 滋平
72回　笠原 勇二
72回　飯澤 文夫
72回　山田 多美枝
72回　小口 邦雄
72回　林 健康
72回　小口 裕治
73回　和泉 桂子
73回　山田 泰
73回　小池 隆昭
73回　原　秀男
73回　坂井 明英
73回　山田 雄一
73回　飯田 夏来
73回　熊谷 靖樹
73回　両角 誠
73回　浅川 辰司
73回　増沢 充万喜
73回　マディーン啓子
73回　窪田 敏
73回　小林 正和
73回　林 俊子
73回　林 春幸
73回　原　大
73回　五味 信治
74回　土屋 彰男
74回　窪田 修
74回　瓦井 昭二
74回　金井 良一
74回　松縄 茂
74回　小口 寿彦
74回　北原 嘉泰
74回　金屋 芳樹
75回　宮下 和彦
75回　柳沢 治通
75回　宮坂 好史
75回　有賀 文彦
75回　伊東 晴俊
75回　戸谷 水穂
75回　小平 聡
75回　高瀬 信行
75回　有賀 一温
76回　田中 修
76回　前島 秀戈
76回　関屋 孝行
76回　北澤 道子
76回　五味 篤
76回　花岡 博茂
76回　石井 和夫
76回　藤森 政敏
76回　森田 益弘
77回　田添 珠実
77回　春日 敏彦
77回　田中 守
77回　牛山 茂
77回　金子 恵子
77回　久保田 みゆき
77回　渡辺 恵祐
77回　西村 いづみ
77回　堀田 康之
77回　薩摩林 恭子
77回　小林 初彦
77回　土橋　一郎
77回　伊藤 潔
78回　両角 寛文
78回　両角 明
78回　南保 勝美
78回　石埜 穂高
78回　東城 清秀
79回　大平 晋子
79回　平出 貴男
79回　林　博志
79回　三井 夏海
79回　原田 健
79回　原田 和明
79回　小平 茂雄
80回　桑澤 二郎
80回　上原 成司
80回　原田 信
80回　花岡 友子
80回　畑　博明
80回　畑　理子
80回　米澤 あ子
80回　矢島 茂人（福太郎）
80回　宮坂 宜男
81回　小平 均
81回　松原 雅子
81回　加藤 博之
81回　小口 久雄
81回　中野 則雄
81回　矢崎 理恵
81回　五味 正信
82回　北原 譲
82回　篠原 誠一
82回　三井 哲志
82回　飯田 健二
82回　行田 泰明
82回　竹内 雅彦
82回　金子 勝彦
82回　青木 基浩
82回　高橋 佳子
83回　内川 昇
83回　森　政宏
83回　田中 妙
83回　岡本 徹
83回　伏見 升成
83回　倉田 重子
83回　永島 正己
83回　藤森 京子
83回　小林 淳二
83回　小山 美由里
83回　小山 善男
83回　矢頭 峰夫
83回　上條 浩一
83回　保永 由香里
83回　松崎 任宏

83回　岩波　越
83回　塩原　正道
83回　林　暢彦
83回　藤森　千秋
83回　真道　美恵子
83回　真道　武彦
83回　小口　正彦
83回　藤森　寛行
83回　岩波　順子
83回　両角　信彦
83回　後藤　敏
84回　矢島　明彦
84回　小田　一仁
84回　赤羽　俊昭
84回　小海　健治
84回　清水　信次
84回　羽田　憲彦
84回　林　昭彦
84回　小口　和彦
84回　野村　典亨
84回　眞田　明美
84回　立木　繁
86回　猪股　顕文
86回　加藤　正治
86回　波賀　かおり
88回　赤池　一馬
88回　藤森　裕基
88回　佐藤　美智子
88回　増澤　浩一
89回　佐藤　吉英
89回　宮坂　賢一
89回　金子　哲哉
89回　金子　武司
89回　大野　美江
90回　古村　雅利
90回　荒井　要
90回　藤江　美智
91回　藤森　裕司
91回　小松　文美
92回　西村　和訓
92回　髙原　由紀子
94回　原　実
96回　熊谷　和則
96回　濱　真由美
97回　川﨑　剛
99回　荒木　健太郎
99回　西尾　泰子
103回　髙林　祐介

2016年度賛助金納入者ご芳名（2016年4月1日~2017年3月31日までに入金のあった方）（敬称略）

38回　北原　文雄
42回　黒河内　三郎
45回　岩波　一寛
46回　武井　清六
47回　藤森　博典
47回　平出　香
48回　宮坂　勝郎
48回　鈴木　敞
49回　小池　光麿
49回　中村　登紀夫
49回　小池　要人
50回　寺島　敏郎
50回　野口　健児
50回　五味　隆俊
51回　橋渡　勇
51回　林　将雄
51回　瀬木　秀保
51回　小松　袈伴
51回　横川　端
52回　笠原　哲次
52回　友野　弘
52回　笠原　邦三
52回　名取　史朗
52回　溝口　甫
52回　藤森　昇
52回　林　尚孝
56回　下平　勝幸
56回　渡部　清
56回　丸山　武博
56回　松見　佳樹
56回　中村　宏
56回　藤井　真之
56回　鈴木　陽
56回　土橋　平治
56回　武居　富夫
56回　小泉　幸雄
57回　小川　善久
57回　武田　進吾
57回　和田　昭通
57回　小林　浩
57回　池田　賜恩
57回　大井　利夫
57回　横田　健次
57回　今井　恒夫
58回　中澤　正衛
58回　吉田　嵩
58回　齋藤　寛
58回　小林　哲
58回　田中　得一
58回　宮澤　立郎
58回　赤羽　正臣
58回　小松　英夫
58回　伊藤　彰彦
58回　茅野　充男
58回　堀田　裕人
58回　寺島　亮三
58回　上條　衛
59回　中畑　龍三
59回　向山　喜一
59回　小川　勝嗣
59回　降旗　國臣
59回　城取　俊昭
59回　白倉　徹哉
59回　小川　邦夫
59回　金子　政喜
59回　小松　守
60回　髙木　祥勝
60回　小川　浩史
60回　五味　良二
60回　小口　英夫
60回　窪田　作栄
60回　久保田　一夫
60回　宮澤　政文
60回　野沢　勲
61回　寺島　健司
61回　市川　澄渡
61回　中村　隆一
61回　佐伯　三朗
61回　有賀　嘉信
61回　瀬戸　明彦
61回　川村　昌平
61回　横川　紀夫
62回　河西　巳喜雄
62回　藤森　汎
62回　金子　浩之
62回　柴田　司壽男
62回　中島　澄雄
62回　小林　國利
62回　堀　浩泰
62回　宮澤　生行
62回　御子柴　義照
62回　長田　宏子
62回　矢沢　征吾
63回　清水　洋右
63回　米山　廸男
63回　守屋　憲一
63回　松野　洋一
63回　尾澤　弘久
63回　伊藤　喜夫
63回　亘理　美代子
63回　河合　信也
63回　徳留　淳朔
63回　宮坂　尚利
63回　伊藤　茂久
63回　斉藤　亨
63回　山田　勝稚
63回　有賀　朝彦
63回　小池　三造
63回　中野　琢雄
63回　藤森　宏一
63回　丸山　佳広
64回　祖父江　宏三
64回　横内　稔
64回　小林　宇夫
64回　清水　治弘
64回　仁科　眞爾
64回　花岡　忠史
64回　武井　省吾
64回　海野　光三郎
65回　松田　昌憲
65回　河西　靖浩
65回　山岡　建夫
65回　伊東　郁夫
65回　岩波　武功
65回　川口　誠
66回　長田　敏行
66回　金丸　敏夫
66回　矢島　弘子
66回　生越　万理子
66回　宮島　忠之
66回　河合　三彦
66回　林　央
66回　三澤　勲
67回　竹村　保俊
67回　三井　敏彦
67回　名取　省三
67回　丸茂　義典
67回　平林　千義
67回　林　武昭
67回　野明　悠
67回　守矢　早苗
68回　今井　長八郎
68回　深澤　豊昭
68回　藤森　照信
68回　春山　明哲
69回　茅野　泰幸
69回　渡辺　泰弘
69回　比田井　和子
69回　比田井　昌英
69回　漆山　敏子
69回　中村　正治
69回　武村　光男
69回　小口　牧通
69回　林　史章
69回　矢島　正昭
70回　米澤　英樹
70回　功力　明美
70回　平山　哲三
70回　久保田　功一
71回　浜　研一
71回　伊藤　洋一
71回　五味　常明
71回　磯野　康子
71回　岩本　達雄
72回　野口　俊樹
72回　御子柴　均
72回　桑沢　元孝
72回　林　健康
73回　山田　泰
73回　原　秀男
73回　浅川　辰司
73回　和泉　桂子
73回　坂井　明英
73回　飯田　夏来
73回　マディーン啓子
73回　窪田　敏
73回　原　大
73回　小林　正和
74回　松縄　茂
74回　小口　寿彦
76回　関屋　孝行
76回　石井　和夫
76回　前島　秀戈
77回　田中　守
77回　牛山　茂
77回　春日　敏彦
77回　西村　いづみ
77回　薩摩林　恭子
77回　小林　初彦
77回　田添　珠実
77回　久保田　みゆき
77回　渡辺　恵祐
77回　伊藤　潔
77回　田添　珠実
77回　金子　恵子
78回　石埜　穂高
78回　両角　明
79回　小平　茂雄
79回　大平　晋子
79回　原田　健
79回　原田　和明
80回　矢島 茂人（福太郎）
80回　原田　信
81回　五味　正信
82回　篠原　誠一
82回　北原　譲
82回　飯田　健二
82回　高橋　佳子
82回　金子　勝彦
82回　行田　泰明
83回　森　政宏
83回　松崎　任宏
83回　岡本　徹
83回　小林　淳二
83回　矢頭　峰夫
83回　林　暢彦
83回　後藤　敏
83回　伏見　升成
84回　小口　和彦
84回　赤羽　俊昭
84回　眞田　明美
84回　小田　一仁
84回　小海　健治
84回　立木　繁
88回　藤森　裕基
88回　赤池　一馬
89回　佐藤　吉英
89回　金子　哲哉
90回　古村　雅利
90回　荒井　要
91回　小松　文美
92回　西村　和訓
92回　髙原　由紀子

納入いただいた賛助金内訳

32,000円	1人
20,000円	1人
12,000円	1人
10,000円	19人
8,000円	25人
5,000円	9人
4,000円	3人
3,000円	81人
2,000円	60人
1,000円	33人

※納入いただいた賛助金について、個人別金額記載を取り止め金額別内訳としました。ご了承ください。

信州諏訪の酒、真澄です。

●上質な真澄を最適な状態でお客様へ　●真澄でお客様の食卓を和やかに　●人と街に優しい酒蔵に　●日本酒を世界酒へ

１６６２（寛文２）年の創業から３５０年あまり。真澄は昨年より一年分背筋を伸ばして四つの夢の実現に励みます。

皆様の益々のご健勝をお祈りいたしますと共に、真澄蔵元に倍旧のご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

七号酵母誕生の酒蔵
真澄 MASUMI
宮坂醸造株式会社
〒392-8686 長野県諏訪市元町1-16
TEL.0266-52-6161 FAX.0266-53-4477

www.masumi.co.jp

東京清陵会の現況　データベースからみた現勢（2017年6月30日現在）。1.東京清陵会会員の定義（1）首都圏（東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、群馬、栃木）在住の同窓生（ただし、退会申出者を除く）。（2）転居して首都圏を離れたが支部会費を納入している同窓生。2.会員現勢　総数3,157名（住所不明者1,241名を除く）（1）都県別会員数　東京都1,459名、神奈川県645名、千葉県398名、埼玉県384名、茨城県67名、群馬県22名、栃木県25名、その他157名（2）年次別会員数（別表１）3.会費等納入状況（2016年4月～2017年3月会計期：2017年3月末現在）（1）納入者数　会費424名、賛助金233名、合計483名（2）年次別会費納入者数（別表１）（3）年度別納入額および人数（別表2）

別表１　年次別会員数と会費納入状況（2017年6月30日現在）

回生	現員	不明	計	会費
～35	4	25	29	
36	1	5	6	
37	2	3	5	
38	4	3	7	1
39	5	3	8	
40	4	4	8	
41	9	6	15	
42	14	5	19	1
43	18	3	21	
44	19	7	26	
45	16	5	21	1
46	26	11	37	1
47	23	5	28	2
48	44	6	50	2
49	54	6	60	3
50	55	14	69	3
51	70	19	89	5
52･55	98	9	107	7
56	88	6	94	10
57	92	12	104	8
58	76	9	85	13

回生	現員	不明	計	会費
59	87	10	97	22
60	92	19	111	26
61	79	13	92	14
62	94	7	101	23
63	90	13	103	34
64	74	13	87	25
65	74	11	85	18
66	72	22	94	17
67	89	18	107	21
68	69	25	94	10
69	98	18	116	20
70	87	25	112	20
71	71	27	98	8
72	55	15	70	10
73	78	15	93	18
74	68	25	93	8
75	57	18	75	9
76	58	21	79	9
77	61	18	79	13
78	67	33	100	5
79	67	13	80	7

回生	現員	不明	計	会費
80	76	6	82	9
81	72	14	86	7
82	52	23	75	9
83	72	31	103	26
84	53	24	77	11
85	49	42	91	0
86	45	36	81	3
87	35	29	64	0
88	29	47	76	4
89	44	51	95	5
90	40	29	69	3
91	23	39	62	2
92	23	46	69	2
93	17	31	48	0
94	23	21	44	1
95	13	30	43	0
96	18	34	52	2
97	13	23	36	1
98	7	31	38	0
99	8	12	20	2
100	6	19	25	0

回生	現員	不明	計	会費
101	2	12	14	0
102	1	5	6	0
103	2	5	7	1
104		2	2	0
105	1		1	0
106	3		8	0
107	1		1	0
108	2	12	14	0
109	3	9	12	0
110	2	13	15	0
111	2	4	6	0
112	2	1	3	
113	11	3	14	
114	7		7	
115	7	2	9	
116	16		16	
117	7		7	
118	21	5	26	
119	22		21	
120	18		18	
合計	3,157	1,241	4,398	482

注 1）現員:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が把握できている方
2）不明:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が不明な方
3）会費:前会計期（2016.4～2017.3）会費あるいは賛助金納入者の人数（前納者含む）
会費免除会員（2016年度時点で80歳以上と25歳以下）の人数　1,009名
4）会費納入者数　前納者含む納入者実数

別表２　年度別会費等納入額および納入者数

平成20～22年度期納入額総計（2008.4～2011.3）	4,406,000円	812名
平成23～25年度期納入額総計（2011.4～2014.3）	3,503,760円	637名
平成26年度期納入額総計（2014.4～2015.3）	2,072,000円	575名
平成27年度期納入額総計（2015.4～2016.3）	2,208,785円	530名
前年度（平成28年度）期納入額総計（2016.4～2017.3）	1,761,000円	480名

注）平成17～19年度期以降の納入額には賛助金も含め会費等として処理している

別表３　会員数と次期繰越金の推移

年	会員数（名）	不明者数（名）	次期繰越金（円）
2003	3,630	767	7,281,132
2004	3,528	794	6,192,586
2005	3,410	894	8,217,342
2006	3,300	928	8,385,652
2007	4,000	698	8,627,401
2008	3,849	818	9,108,456
2009	3,822	813	9,075,532
2010	3,628	968	8,543,349
2011	3,595	960	8,677,237
2012	3,421	1,089	8,165,247
2013	3,363	1,123	7,491,435
2014	3,207	1,235	7,201,555
2015	3,173	1,250	7,421,091
2016	3,157	1,241	7,410,822

注 1）次期繰越金は各年の3月末現在
2）会員数、不明者数は翌年の5～7月頃現在
2016年度（今期）は2017年6月末現在

2017年度収支予算（案）自2017年4月1日～至2018年3月31日（単位:円）

支出の部

科目	金額
総会費用	1,690,000
会議費	300,000
諸会費	100,000
印刷・通信費	200,000
事務雑費	10,000
会報費	1,160,000
清陵勉強会	60,000
HP 運営費	100,000
予備費	30,000
小計	3,650,000
次期繰越	7,412,022
合計	11,062,022

収入の部

科目	金額
総会会費	1,640,000
会員年会費	900,000
賛助金会費	1,000,000
寄付金	50,000
預金利子	1,200
広告料	60,000
小計	3,651,200
前期繰越	7,410,822
合計	11,062,022

（注）2017年度予算の収支差額は
1,200円の剰余金となります。

収支計算書（案）自2016年4月1日～至2017年3月31日　（単位:円）

収入の部

科目	予算額	決算額	差異（予算の方が）
1　会費	4,200,000	3,021,000	1,179,000
（1）総会会費（152＋22名）	1,800,000	1,260,000	540,000
（2）会員年会費（422名/427件）	1,100,000	854,000	246,000
（3）賛助金会費（233名）	1,300,000	907,000	393,000
2　諸収入	51,200	97,086	△ 45,886
（1）寄付金	50,000	50,000	0
（2）預金利子	1,200	566	634
（3）広告料	0	20,000	△ 20,000
（4）その他	0	26,520	△ 26,520
当期収入合計（A）	4,251,200	3,118,086	1,133,114
前期繰越	7,421,091	7,421,091	0
収入合計（B）	11,672,291	10,539,177	1,133,114

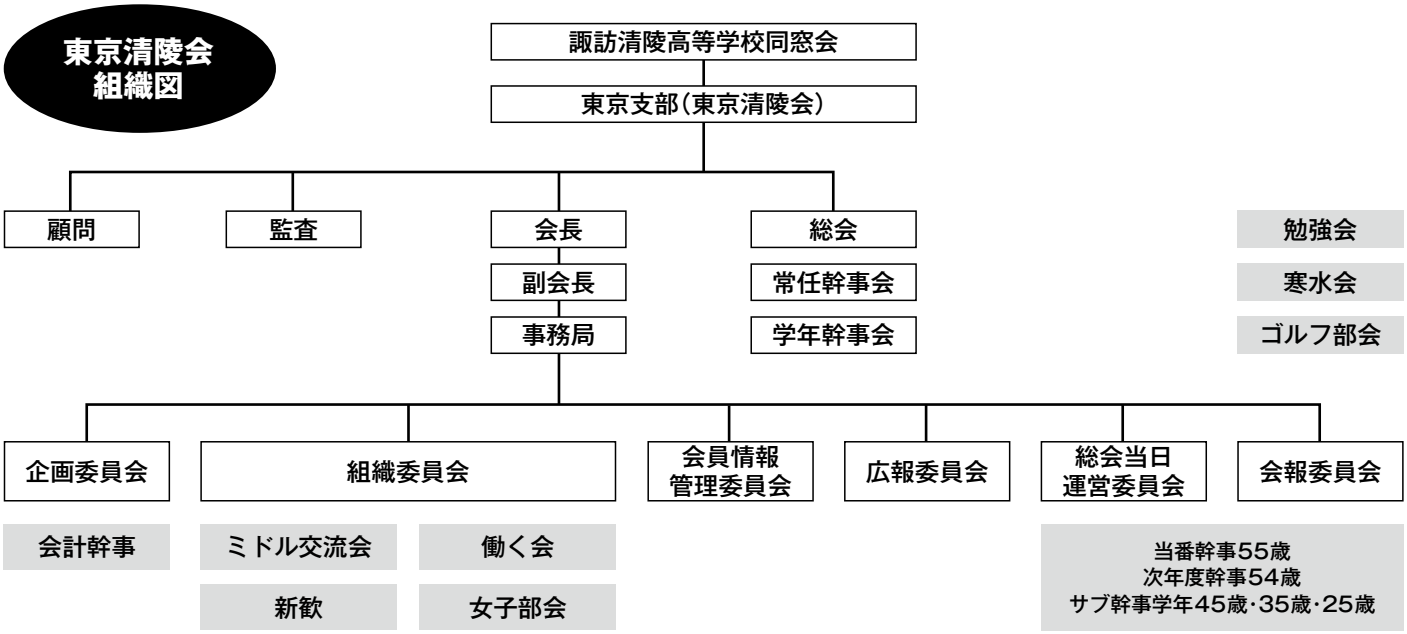
支出の部

科目	予算額	決算額	差異
1　経費			
（1）総会費用	1,800,000	1,441,676	358,324
（2）会議費	300,000	297,826	2,174
（3）諸会費	100,000	82,500	17,500
（4）印刷・通信費	240,000	168,129	71,871
（5）事務雑費	5,000	9,000	△ 4,000
（6）会報費	1,360,000	1,049,224	310,776
（7）清陵勉強会	60,000	60,000	0
（8）HP運営費	350,000	20,000	330,000
（9）予備費	30,000	0	30,000
当期支出合計　（C）	4,245,000	3,128,355	1,116,645
当期収支差額　（A）－（C）	6,200	△ 10,269	16,469
次期繰越　（B）－（C）	7,427,291	7,410,822	16,469

寄付金:本部 40,000円　学校: 10,000円
その他の収入:清酒販売23,800円　人名録2,720円

活性化第二フェーズがスタート、機能別委員会制度導入

2012年から活動を開始した当番幹事手前の50代前半が中心となりスタートした活性化ワーキンググループ（WG）も、年代別行事、女子会と出揃いました。会員情報管理システムとホームページ改定のタイミングで少人数の事務局体制から若手中堅も運営に参画する、組織的運営のために委員会制度を導入し、未来志向の東京清陵会を目指します。



【狙い】東京清陵会が同世代の親睦交流に留まらず、多様な同窓生との世代間交流や研鑽、さらに後輩、母校生徒支援も使命とし、会長団・事務局の少人数運営から、委員会制度で多層な会員による運営体制を整備し持続的成長を目指す。

【位置付け】委員会は事務局から委嘱された事項を企画検討推進し、事務局・幹事会に報告する他、当番幹事、サブ幹事や行事開催幹事をサポートする。

【構成】事務局、常任幹事、その他、学年幹事有志の数名で構成する。

【活動】打ち合わせはＥメールなど極力効率化する。サポートは標準化し開催負担を軽減する。

●81回生の矢崎（倉品）理恵です。この度、103回生の高林さんと「会員情報管理」を担当させていただくことになりました。どのような会でも、支える方々（会員の皆様）にきちんと情報が届き、しっかり会員がつながってこそ、有意義な活動が生まれ、発展し、会そのものの成長につながると思っています。前任の林健康先輩のような専門的知識もスキルもありませんが、情報管理の業務のハードルを下げて、後の方にお渡しできるよう、力を尽くしたいと存じます。

●企画委員長の北原譲（82回生）です。一昨年は当番幹事、昨秋から事務局長をしています。企画委員会は、事業計画の立案、会計幹事と連携し予算案立案、事務局、幹事会などの開催や各委員会の統括調整、会員登録増強、会費納入促進を進めます。本部同窓会連携、母校生徒支援の他、中長期的な課題を検討します。委員は北原の他、赤羽氏（84回生）、金子氏（89回生）、会計幹事の小海氏（84回生）の４人。魅力ある東京清陵会にします。意欲的な若手・中堅の参画をお待ちしています。

●東京清陵会には幅広い年代の会員が在籍するなか、各世代が求めることを検討・把握し、それに応える魅力ある施策を考えるという命題をいただいています。現在各種イベントが行われていますが、それらをサポート・検証しながら、ノウハウの引き継ぎ、参加者拡大支援、そして必要に応じ新規イベントの企画などを行っていく予定です。また、イベント時の会員登録強化により、会費納入促進につながればとも思っています。今後とも宜しく御願いします。

組織委員長　岡本徹（83回生）

●広報委員会メンバーの99回生荒木健太郎です。109回生の山川さんとともに、①同窓会の活動予定・結果のタイムリーな発信②卒業生の同窓会参加の積極的バックアップを目標に、ホームページやSNSの更なる活用を目指し、活動しております。若い世代の同窓生も増えてきましたので、時代に沿った同窓会運営を、広報委員会は目指しております。皆様からのご意見、アイデアも是非お願いいたします。

第28回ゴルフコンペのご案内

会員の交流・親睦を兼ねてゴルフコンペを下記の要項で開催します。
同期生などお誘い合わせのうえ、奮ってご参加ください。

●日時：**10月14日**（土）　8時50分集合　9時32分スタート

●場所：**紫カントリークラブ　あやめ36　東コース**
（常磐自動車道・柏I.Cから、約20分。つくばエクスプレス・流山おおたかの森駅で東武野田線に乗り換え、東武野田線「野田市駅」下車。タクシーで約10分）

●プレー代：約19,000円（食事付）　会費：5,000円
参加希望の方は、☎03-3518-2385 スタジオパラム＝清水（84回生）まで。
FAXの場合は、住所・氏名・卒業回・連絡先を明記の上、お申し込みください（FAX：03-3518-2386）。

●幹事＝藤森宏一（63回生）、小海健治（84回生）

昨年10月15日に行われた第26回ゴルフコンペ。20名が参加、優勝は仁科眞爾さん（64回生）、準優勝は小海健治さん（84回生）。

東京清陵会2016年度事業報告

2016

4・13　南信同窓連第53回親睦ゴルフ会（中山ＣＣ）
4・16　第１回事務局会議（本郷事務局）
4・16　当番学年（83回生）第４回編集会議／進行会議（本郷事務局）
4・19　第25回東京清陵会ゴルフコンペ（埼玉ゴルフクラブ）
4・23　第19回寒水会、6/12第20回、7/18第21回、9/4第22回、11/28第23回
4・26　第157回清陵勉強会（剛堂会館）講師　飯田留美（81回生）
5・21　南信同窓連総会・懇親会（ホテルメトロポリタンエドモント）14:00～
5・23　当番学年（83回生）第５回編集会議／進行会議（本郷事務局）
5・28　本部同窓会常任幹事会、幹事会（清陵会館）
5・29　第４回新卒歓迎・学生交流会（アルカディア市ヶ谷）参加者36名
6・18　常任幹事会（剛堂会館）出席者22名
6・21　当番学年（83回生）第６回編集会議／進行会議（本郷事務局）
6・25　清陵本部同窓会総会・懇親会（紅や）参加者350名
6・28　第158回清陵勉強会（剛堂会館）講師　藤森寛行（83回生）
7・2　第52回東京同窓連定期総会（日本教育会館）11：00～
7・9　東京清陵会女子の会（style MINAMIAOYAMA）参加者28名
7・19　当番学年（83回生）第７回編集会議／進行会議（本郷事務局）
7・23　学年幹事会（剛堂会館）出席者44名
8・15　会報「東京清陵会だより」27号発行　発送部数3,177部
8・21　臨時事務局会議（DB、HPの検討）（本郷事務局）
8・23　第159回清陵勉強会（剛堂会館）講師　池原実（90回生）
8・29　当番学年（83回生）第８回編集会議／進行会議（本郷事務局）
9・26　当番学年（83回生）第９回編集会議／進行会議（アルカディア市ヶ谷会場下見）
10・2　第50回総会・懇親会の開催（アルカディア市ヶ谷）
10・15 第26回東京清陵会ゴルフコンペ（紫カントリークラブ　あやめ36）
10・16～17　第29回南信同窓連親睦旅行（諏訪・岡谷方面）
10・25 第160回清陵勉強会（剛堂会館）講師　宮坂覺（66回生）
11・9　南信同窓連第54回親睦ゴルフ会（中山ＣＣ）
11・12 本部同窓会物故者慰霊法要（地蔵寺）
11・19 第２回事務局会議（本郷事務局）
11・27 第３回働くことを考える学生の会（剛堂会館）
12・2　南信同窓連忘年会（東京オペラシティ東天紅）18:00～
12・3　当番学年（84回生）第１回編集会議／進行会議（本郷事務局）
1・21第２回、2・18第３回、3・18第４回
12・13 第161回清陵勉強会（剛堂会館）講師　小林和男（62回生）
2017・1 21　第24回寒水会、3/11第25回

2017

2・4　東京同窓連新年懇親会（アルカディア市ヶ谷）12：00～
2・25　本部同窓会常任幹事会、幹事会（清陵会館）
2・28　第162回清陵勉強会（剛堂会館）講師　原　秀男（73回生）
3・5　第４回ミドル交流会（剛堂会館）

東京清陵会2017年度事業計画

1　第51回総会・懇親会の開催（10月１日・アルカディア市ヶ谷）
2　会報「東京清陵会だより」28号の発行（８月初～中旬）
3　常任幹事会、学年幹事会の開催（５月、７月・剛堂会館）
4　当番学年（84回生）編集会議／進行会議（随時・本郷事務局）
5　事務局会議（定例、臨時・本郷事務局）
6　第５回新卒歓迎・学生交流会の開催（５月28日・アルカディア市ヶ谷）
7　第３回働くことを考える若手の会（プレ就活）開催（11月26日・剛堂会館）
8　第４回ミドル交流会の開催（2018年３月４日・剛堂会館）
9　女子の会の開催（６月10日・Bistro Barnyard Ginza）
10　清陵勉強会（原則偶数月の第４火曜日・剛堂会館）
11　会員増強策の検討、実行
12　会員データベースの改定・整備
13　東京清陵会ホームページの改定・管理
14　懇親ゴルフ会の開催
15　寒水会（伊藤長七研究会、小石川高校同窓会紫友会との共催）への参加
16　本部同窓会、南信同窓連、東京同窓連行事への参加
17　母校・生徒の交流・支援
18　その他必要とする事業

編集後記

★「清陵マスコミ会」への参加から始まった東京清陵会とのご縁。会報のお手伝いをするようになり、早10余年。今回の「東京清陵会だより」は、いわば〝集大成〟です。同窓会報ゆえに、なるべく多くの同窓生の情報を掲載できるような企画を考え、紙面に登場していただき、記事としたつもりです。今回は取材が多く、たくさんのOB・OGとお会いする機会がありました。地縁的な、そして清陵というつながりの中で、それぞれに親しみを感じ、共感を覚え、楽しい時間でした。そして、なによりも賛同し協力してくれた84回生の有志のみなさんに心より感謝いたします。本当にありがとうございました！　　編集人　清水信次（84回生）

訃　報

謹んで哀悼の意を表し、
ご冥福をお祈り申し上げます(敬称略)。

氏　名	年次	逝去年月日
井上　村吉	39回	2016/3/8
立石　喜信	39回	2017/1/17
宮阪　芳喜	39回	2014/9/25
鈴木　能彦	44回	2016/6/7
植松　康郎	45回	2014/9/
坂田　清次（旧姓　藤森）	45回	2016/3/30
小林　幾美	47回	（不明）
城取　昭	47回	2014/12/2
浜　昭祐	47回	2017/4/8
堀内　恵	47回	2016/9/15
植野　公雄	48回	2016/2/14
小口　五郎	48回	2015/11/17
川北　利雄	48回	2016/6/22
林　徹	49回	2017/4/23
増田　廣實	49回	2016/6/5
小坂　幸三	50回	2016/6/10
瀬木　秀保	51回	2015/12/28
塩澤　秀登	51回	2015/3/6
花岡　炳雄	52回	2017/2/27
増沢　政男	52回	2016/9/19
河西　孝雄	52回	2015/11/5
鮎沢　澄雄	55回	2016/7/26
金子　孝	55回	2016/6/26
永坂　一郎	56回	2016/12/10
武井　謙	56回	2016/6/27
宮坂　長明	56回	2017/3/19
矢島　毅	56回	2016/2/28
小泉　力	58回	2017/2/7
濱　實	58回	2016/12/18
小林　邦明	59回	2015/12/23
長瀬　佾美（旧姓　藤森）	59回	2016/12/22
桑澤　清明	60回	2014/6/27
笠原　俊城	62回	2016/6/5
小松　宏	62回	2015/6/6
小澤　俊	64回	2017/
高木　洋壽	65回	2016/12/22
古村　浩三	65回	2017/3/27
野村　敏次	65回	2016/10/5
花岡　武	65回	2016/
松田　国男	65回	2017/3/30
林　弘道	65回	2017/3/16
立木　壱郎	67回	2017/3/24
伊藤　袈裟秀	67回	2016/11/7
今井　長八郎	68回	2017/1/31
箭内　顯彦（旧名　紀雄）	69回	2016/7/20
堀田　新	71回	2015/9/11
渡辺　信夫	83回	2015/5/5

●事務局にご連絡をいただいた方（本部会報第43号含む）を掲載